

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
公衆衛生学	2	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①公衆衛生学は必修科目であり、国家試験資格取得に必須である。内容が幅広く、知識理解と思考判断が重要になる。受講動機を見ると、「必須科目である」95.5%、「資格取得に必要である」24.2%で、「関心のある内容である」3%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。予習・復習について説明を行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>④授業中の学生たちの勉強意欲・関心を高めるため、授業中の質問や討論を増やした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①本試験の成績の平均値は68.6(±13.0)点であり、不合格者は12名であった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達したが、成績の差は大きかった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同じく、次年度は成績を理想的レベル(平均点80点)まで上げる工夫が必要である。</p> <p>③「自分が学ぼうとしている専門分野のさまざまな課題を検討する力を得ることができた」と答えた者は100%であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」と答えた者も97%で、知識理解、思考判断については目標が達成されたと考えられる。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後を課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断については目標を達成したが、態度に関しやや達成された。しかしながら、理想的レベルまでは達していなかった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.4で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.1であった。昨年の評価より0.2点低下した。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られた」の平均は3.1で、授業の内容はよかった。また「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.2で、昨年と同じであった。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をより具体的に示した上で、講義スライドや説明に力を入れて授業を進めたい。</p> <p>学生の意見として、授業を進めるスピードが速く、聞き取りにくいところがあったという意見があり、次年度からは改善して行きたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断、態度の面で課題は達成できたが、関心意欲の面では課題を残した。今後、公衆衛生学の仕事現場での重要性をしっかりと説明し、学生の関心意欲の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、授業中、質疑応答、発表の時間が少なかつたことで、学生の積極的な発言など関心意欲を高めることができなかつた。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間を増やして、学生の関心意欲を高める努力を行って行きたい。</p> <p>講義スライド、配布物(授業の参考資料)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて授業進度と内容説明について改善して行きたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	銀光

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康管理概論	3	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になって統計学、栄養疫学と公衆衛生学の学習は終了したので、健康管理概論の講義は今までの勉強のまとめとして学習するよう指導し、管理栄養士国家資格取得するための意識を高め、できるだけ具体的な演習問題を解くようにしている。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備のため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業で使用する配付資料を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。具体的にはスライドの見やすさ、講義内容の論理性などについて修正した。</p> <p>④受講動機を見ると、「必須科目である96.6%」、「資格取得に必要である」16.9%で、関心が低い内容であることを示唆するものであった。授業中の学生たちの勉強意欲を高めるため、授業中の質問や討論を増やしたい。</p> <p>⑤授業内容がはっきり聞き取れるよう言葉はゆっくり話すようこころかけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は79(±9.1)点であり、不合格者は一人だった。標準的レベル(概ね70点以上として試験を作成)に達した。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は同じである。次年度は理想レベル80点を目指し、成績を上げる工夫が必要である。</p> <p>③学生による授業評価においては、「自分なりの目標を達成した」と回答した者は96.8%であったが、「一回30分程度の予習・復習をしたか」という質問に対し、0回と回答した者は多かった。次年度は予習・復習の重要性を初回の授業のオリエンテーションで説明する必要があると認識した。</p> <p>④「図書館、インターネット利用」は非常に少なかったため、今後は課外課題を与え、図書館、インターネット利用を促進したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験に出題率が高く、また管理栄養士として働く上でも必要とされる知識である。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から知識・理解、思考判断に関する達成度が比較的良好であった。管理栄養士国家試験の試験問題に準じて定期試験問題を作成したので、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に          単にお示しください。          また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し          ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt;          「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、          インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」の平均が3.7で、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、          学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.5であった。昨年より0.1点上昇した。「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が          作られた」の平均は3.5で、授業の内容はよかったが、予習・復習の時間が想定より少なかったことが反省点である。次年度に向けては、知識・理解の行動目標をよ          り具体的に示した上で、予習・復習をしっかりと、授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、説明が聞き取りにくいところがあったという意見があった。次年度からは学生の意見を受け止めて、改善していきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>専門教育科目にあたる本科目の位置づけから、知識理解、思考判断の面で課題は達成できたが、意欲関心の面では課題を残した。今後、予習・復習の重要性を          しっかり説明し、学生の成績の向上を目指していきたい。</p> <p>授業過程を振り返ってみたとき、毎回授業中、質疑応答の時間を設けたことで学生の思考判断を高めることができた。しかし、意欲関心についてはさらなる工夫が          必要である。以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示して、予習したかをチェックし、授業中の質問、応答、発表時間をとり、復習課題を提示して、学生の意欲          関心をあげる努力をしていきたい。</p> <p>説明内容に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度にむけて改善して行きたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
健康情報処理論	2	前期	必修	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>2年次になり、実習・実験の授業が多く、他科目のレポート課題が多いこともあり、思考することを重視し、90分の時間内で完結できるような内容にし、教えない授業を心がけている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>AクラスはA:10.8%、B:27.0%、C:35.1%、D:18.9%、E:5.4%、BクラスはA:5.1%、B:20.5%、C:43.6%、D:28.2%、E:2.6%であった。授業評価の折に、以下の行動目標について、出来る、何とか出来る、出来ないの3段階で自己評価して貰ったところ、出来ないと解答した割合は、(1)0%(7%)、(2)3%(4%)、(3)5%(9%)、(4)3%(13%)であり、昨年より減少しており達成されたと考えている。</p> <p>(1)適切な健康情報を検索・収集できる。 (2)収集した健康情報について信頼できる情報か否か判断できる。 (3)収集した健康情報を適正に処理し、問題解決、意思決定に活用できる。 (4)健康情報を解釈する上で必要な基本的な統計処理を理解できる。</p> <p>なお、出来ると回答した割合は、(1)30%(23%)、(2)11%(18%)、(3)23%(13%)、(4)11%(4%)であった。括弧内は昨年値。</p>					
<p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」であるが、幅広い教養を身に付けるという点においては、内容的に妥当であるとする。また、一般消費者の立場、売り手の立場に加え、管理栄養士の立場からの3つの視点から思考し判断するような授業を心がけた。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 設問の理解(文章の解釈)および記述統計の知識に問題のある学生については、授業の総復習となる再試験を実施した。残りの学生については成績の結果から、知識・理解が定着していると考えられるが「思考・判断」に関しては、批判的・理論的に判断することの大切さを認識するに留まっている。</p> <p>③まとめ 以上から、「知識・理解」においては内容的妥当性には問題はないと思われるが、「思考・判断」においては、教材等の工夫を要すると考えている。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>教科書がないことから、予習・復習がし難い授業である。15回の授業内容を纏めたものを作成する必要があると感じている。 昨年同様に「説明が理解できない」、「意味が分からない」というコメントがある一方で、統計学(数学)の好きな学生もあり、学力の格差は一段と大きくなっているように感じる。 相互に教え合うこと、分からないことは質問するよう、促しているが、両端に位置する学生に、教えること、質問することの苦手な学生が多いように思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>先ず考え自分で解答するように伝え、思考することを重視する授業を心がけている。 暗記ではなく、自分で適切な情報を収集し、活用し、意思決定し、問題を解決するという過程の大切さに気付くような、身近な事例や課題作りに今後も心掛けたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生化学Ⅱ	2	前期	必修	いいえ	106

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本講義は、科目の本質上、特に論理的思考を促すことに重点を置いて進めている。一年時の選択科目である「生活の中の化学」、および一年時の必須科目である「生化学Ⅰ」で講義した知識・理論と運動性をもたせるように心掛けている。今回の受講動機は、「必修科目である」98.8%、「資格取得に必要である」17.6%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は、例年通り低く、わずか1.2%にとどまっている。苦手意識を持っている学生は、実際には最初から取り組んでいない(人並みに学習していない)だけで、本当に苦手であるかどうか定かではない場合が多いと考えられる。栄養学と生化学はその起源が同一という見方もあり、かつ国家試験受験資格取得に必須の科目でもある。好むと好まざるにかかわらず、栄養学を学ぶことを決意した以上は、生化学に正面から取り組むべきであることを第一回目の講義で説明した。また、生化学が生理学や基礎栄養学をはじめとするいくつもの科目と関連していることを折に触れ強調しつつ講義を進めた。</p> <p>②毎年、キーポイントやキーワードをまとめた資料を作成・改訂し、配布している。講義の前後、あるいは試験前に目を通したうえで、学習に取り組むことを勧めている。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった		
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>受講者数は、再履修を含め106名であった。最終成績の平均は58点、不合格者は38名(未受験者5名を含む)であった。うち、優(80点以上)以上の成績を修めた学生は、17名であった。平均点、合格率および高得点者の数がすべて昨年を大幅に下回った。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。授業の予習が0または1回の学生が71名、一方、授業の復習が0または1回の学生が68名であった。ほとんどの学生が普段からの予習・復習は特に行わず、試験前に学習することで、試験に臨んでいたと考えられる。50点未満での不合格者は、予習・復習を行わず、試験前の学習も不足していたのではないかと考えられる(要するに完全な勉強不足)。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて約9割、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題し、基礎問題だけでも合格点を達成できることを心掛けて作成した。合格者の点数の優劣は、主に基礎問題での得点率に依存していたように見受けられた。物事を論理的に深く思考する姿勢をもった学生を増やすために、今後、いかにすべての学生に意欲を持って受講させるかが課題と考えられる。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。合格率、平均点、高得点者の数から考え合わせて、内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、思考判断、および意欲関心を問う科目である。試験での知識理解、思考判断を問う問題の正解率から考えると、前二者に関しては、低調な内容であったと考える。やや高度な思考力を要する問題は、意欲や関心を持って普段から学習に取り組む必要がある。本年度の受講生、特に2年生は、受講態度が例年に比べて悪い、あるいは意欲が感じられないということにはなかった。それにも関わらず、予想に反して例年より得点率が低かった。今後、学生により論理的思考を積極的、意欲的に行うことを特に指導していきたい。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が2.9と低かった。説明の仕方、講義資料やスライドの図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。次年度に向けては、思考判断の重要性をより具体的に示した上で、授業に参加するよう促していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本年度の学生の受講態度は、特に2年生については、全体としては、高評価に値するものであったにもかかわらず、合格率、平均点とも、過去3年間と比較して低かった。その意味で、本年度も達成度は満足のいくものではなかった。本年度も講義中や講義後にわからないところを質問して、解決しようとする学生は、相変わらず少なかった。50点未満の低得点の学生は、勉強不足に加えて、疑問点を放置して解決していないために、多くの学生が確実に得点する問題を間違えている印象を受けた。学生の学習意欲を以下にして引き出すかが、課題であろう。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
微生物学	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は例年どおりで、「必修科目である」が100%に近く、「関心のある内容である」は5%未満と、極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を引き出せるように努めた。</p> <p>②例年どおり、教科書の内容を要領よくまとめたプリントを中心に授業を進める。理解を深めやすく解説手順や話し方に留意し、また、記憶する要点を簡潔明瞭に示すことによって学習の便宜を図った。</p> <p>③管理栄養士国家試験にとって重要科目であるので、国家試験で重要視されている箇所については、特に時間をかけて解説を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験合格者は90%、80名(昨年は93%、84名、一昨年は89%)、成績は秀18%、16名(昨年は7%、6名)、優36%、32名(昨年は30%、27名)、良25%、22名(昨年は40%、36名)、可11%、10名(昨年は17%、15名)、再試験では7名中3名が合格(昨年は6名中全員が合格)であった。本試験の出来・不出来は、これまで試験日程に大きく左右されてきたことから、達成度については本試験と再試験の合格率で判断すべき科目である。その判断に年度差が生じないように、今回を含めてこれまでの試験問題を同一のもので実施してきている。本科目は、難易度の高い科目であるが、今年度の合格率、および、成績はかなり高く、理想的レベルに達していた。</p> <p>②クラス間差については、AクラスとBクラスについて、平均点75:78(昨年は73:75)、標準偏差21:18(昨年は17:9)、秀7名:9名(昨年は3名:3名)、優14名:18名(昨年は15名:12名)、良13名:9名(昨年は14名:22名)、可6名:4名(昨年は6名:9名)であり、この学年においては、「秀」取得者が多かった。</p> <p>③国家試験を受験するグループとそうでないグループの双方においても、達成度に差が観られなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けに苦慮する面がある。この課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 昨年度が例年に比較して成績がかなり良かったが、今年度はさらに優秀者が増加したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に  
お示しください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し  
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン  
ターネット利用」学生の意見など

①法律改訂のあった内容については、その改訂の背景について分かりやすく解説することで、より理解を深めることができるように十分に配慮した。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。

①基礎科目のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成について十分達成できた。

②例年の課題である「免疫についてももう少し理解を深めさせるために時間が必要である」ことについては、講義内容の調整と資料改訂によって改善できた。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
運動生理学	4	前期	選択	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>運動生理学の基礎的知識の定着を前提とし運動、栄養、運動関連代謝系との関係を理解できるように努めた。受講の動機は「関心があって受講した」と答えた者が60%だった。しかし、60%の学生は「単位数の確保」と4年生で卒業単位のGPA調整をしており、消極的の学生ばかりとは言えない。健康関係の情報は近年メディアを通して日常的に触れているが、断片的で不十分である。トピックス、ダイエット、体作り方法などを取り上げながら、自分自身を含めた人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるよう授業計画を構成した。授業は、ノート提出、レポート提出、小テストを単元毎に設け、予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませるよう促した。小テストにはとても真面目に対応していると思われた。レポート作成では、各レポートごとに個別的指導を行い、論理的考察方法の道筋を会得できるよう努めた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>最終的な成績の平均値は86点(SD7.8)であり、再試対象は0名であった。全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは4名(5名中)と予想に反して少なかった。受講動機は「単位数確保」の学生が28.6%であった。「関心がある」学生が7.1%で、その学生らの貢献で活気のある授業をすることができたと思う。目標達成できたと答えた総数は100%(14人中)で高値を示した。目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は100%、「事象理解の視点を得た」と思う学生は100%、「課題検討力」を得た学生100%、「判断力を得た」100%、「学習意欲が得られた」100%、「必要技能を得た」100%、「表現力の向上」100%、「倫理規範獲得」100%、「職業選択の参考」100%といずれも高い自己評価を持たすことができたと思う。</p> <p>欠席する者も多くなか全員が積極的に受講していたと考える。今後、関心度に関わる数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。またその歴史なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。</p> <p>学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であるが、「専門基礎科目」と「専門応用科目」をつなぐ要の位置にあり、必修である。授業準備の欄で指摘したように国家試験を受けないことを決めた学生も受講するなど、動機付けを工夫をする必要がある。本講の学生は一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問っているか学生に伝わらなかった可能性を示している。昨年度課題としてあげた領域はすでに内容を修正しており、その領域の成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>以上から、内容的妥当性に問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会を設けたが平均が3.0であった。事例を取り上げて検討をする機会を作ったが、じっくり考えてもらう時間は十分に作れなかった。復習の時間が想定より少なかったことも反省点である。次年度に向けては、第一に、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、事例を事前に提示して検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。学生の意見として、配布物の記入箇所を工夫することで時間が作れるのではないかとというのがあった。これは取り入れていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門応用科目の入り口にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、事例をじっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで更に改善を図りたい。以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。また、内容の整理を行うことで、授業中に課題を行う時間を増やすようにしたい。また、配布物に対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品学Ⅱ	2	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①当該科目は必修科目であり、また、管理栄養士国家試験の際に学生が苦手とする基礎系の科目の一つである。食品ごとの成分の特徴、機能性、加工上での特性など情報量が多いので、国家試験の出題傾向等を提示しながら、ポイントをまとめた講義にしよう心掛けた ②学生の受講動機は「必須科目である」98.4%となっており、管理栄養士国家試験を念頭に置いた取り組みは非常に重要であると思われる ③各章ごとに、国家試験の過去問を取り入れながら授業をすすめたが、重要な点を判断することが難しいようであったため、来年度は、まとめの資料を作成し、各項目の知識の整理を徹底させた
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。  *根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	◎成績評価 最終的な成績平均値は62点であった。再試験対象者35名中、9名が再履修対象となった。再試験後、88%が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものは8名であった。成績評価からみると、9割近くが標準レベルには達していたが平均点が低く再試験対象者も多かったことから、「知識理解」、「思考判断」における評価はどちらともいえないと判断した。 ◎授業アンケート 学習到達度の自己評価では、「知識の確認、新たに得ることができた」の項目では、平均値が3.6と中央値よりもやや低い結果となった。学習量の評価において、事前事後学習が0回の学生が40名を超えていることも、知識の定着や理解度が低くなっている要因と考える。  国家試験に関連している科目であり情報量も非常に多いため、個人での事前事後学習、特に復習が大切である。復習に繋がるような課題等を取り入れていくことを来年度に向け検討したい。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。  <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品に関する、成分特性、機能性、加工特性など、管理栄養士・栄養士として食品の基礎的知識を修得することは必須である。学生も一定の成績を収めていることから、内容的にも妥当であったと考える。 ② DPからみた内容的妥当性 成績評価から88%が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問をうけ、それに答える機会が作られていた」の平均が3.2と最も低かった。「質問の機会」に関しては来年度、しっかりと提示したいと思う。基礎科目の講義のため、話し合いや発表ということを授業に組み込むことは難しいが、「学生が参加する」という点で、何らかの発言してもらう機会を検討したい 学生からのコメントとして、「ホワイトボードの字がわかりづらい」「説明が難しい」との指摘があったため注意して授業を進めて行こうと考えている。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>「専門基礎科目」に位置づけされている科目であり、「食品」に関する幅広い知識の習得に繋がる教科である。88%が標準的なレベルに達していたが、平均点が低い事、再試験対象者が多かったことから、知識理解の項目では達成度はどちらとも言い難い結果であった。各章ごとに、国家試験の過去問を取り入れながら授業をすすめたり、15回目にはまとめの時間を組み込み、重要な点などを示したが、難しいようであった。情報量も非常に多い教科であり、個人での事前事後学習、特に復習が大切である。学生にそのことを十分に理解してもらい、復習に繋がるような課題等を取り入れることを検討したい。また、授業中の板書の仕方や、説明方法などに対する学生の意見は取り入れ、来年度に改善を行いたい</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードコーディネート論	3	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目はフードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。そのため「専門教育科目」、「専門基礎分野」の選択科目である。必要科目12科目のうち、この科目を含む2科目のみ3年前期で開講され、その他の科目は2年生までに履修済みである。そのため学生にとっては計画的に学習が進めにくいのではないかと予測される。</p> <p>②今回の受講動機をみると「資格取得に必要である」が82.5%と資格取得の意志が強く見受けられる。</p> <p>③出題範囲の講義を行い、その後、過去問を配布し、繰り返し学習するよう促した。また、2年生までにすでに履修した科目の復習をすすめ、認定試験の概要について説明し、学習意欲を促すように努めた。</p> <p>④食品開発やフードコーディネートに興味を持つきっかけ作りとして、外部講師による「食の企画と実践」の講義を行った。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の自己評価到達度の平均と中央値は、「知識を確認、新たに知ることができた」が3.6、4.0点と高く、認定試験合格に寄与していると考えられる。また、成績平均値は77.9±13.4点と昨年度に比べ、平均点が低下した。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは71名中39名の結果だった。試験日に必修科目の試験と重なり、フードコーディネート論の学習がおろそかになったようである。そのため追試が7名であった。他の科目と異なり、出題内容や出題傾向が過去問等で開示されており、また、認定試験の12科目の1科目にすぎないため、過去問を繰り返し学習する必要がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」の選択科目で、フードスペシャリスト認定試験受験資格として必要な必修科目である。授業準備の欄で指摘したように受験に必要な科目12科目のうち、10科目は2年生までに履修済みで、本科目を含む2科目のみ3年前期に開講される。そのため、12月に試験が実施されるまでの動機付けに苦慮する面がある。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 過去問をよく学習しており、問題内容もよく熟知され、問題数も少ないため成績が非常に良かった。</p> <p>③まとめ 以上から、認定試験用の受験科目の1科目としては内容的妥当性に問題はないと思われる。ただし、すでに履修済みの科目10科目の学習においては、学科として、過去問の印刷物の配布や自主学習の意欲向上に努めなければならない。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>認定試験受験科目のため、講義の内容として、過去問出題率の高い項目に関して特に重点を置いて学生に周知させたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>過去問を中心としたテスト内容で最高得点が100点、最低得点が50点と2極化した。選択科目であり、任意の検定試験であるため、学生の学習意欲にかなりの差が認められた。課題としては、過去の出題が多い過去問内容に重点をおき、また、講義内容が単調にならず、飽きさせないようスライド等の工夫を行う。さらに、複数回の小テストの実施により、問題に慣れされることが合格レベルに達する近道であるとする。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生化学実習	2	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①実験を中心とした実習科目であることから、本科目では、事実や結果を客観的かつ正確に観察し、その上で論理的に解析、考察に取り組むことに重点を置いている。講義科目である生化学ⅠおよびⅡで講義した内容との連動性を重視している。座学で得た知識や論理を以下に実践の場で、活用しさらに発展させる力を養うことが、将来管理栄養士として現場で日々遭遇することになる膨大な情報、事例を客観的に把握、分析・解析し、根拠に基づいた栄養指導、治療を実現していく上で重要であることを強調して、授業を進めた。今回の受講動機は、「必修科目である」98.6%、「資格取得に必要である」10.0%の2つに集中しており、一方、「関心のある内容である」は1.4%であった。</p> <p>②例年用いている私が作成した実習書に、必要な変更や改訂を加えて配布した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終成績の平均は67点、不合格者は1名であった(退学希望者)。うち、優(80点以上)の成績を修めた学生は、1名であった(昨年度4名)。本科目の成績評価は、レポート60%、授業への取り組み40%で行っている。レポートでの評価内容の内訳は、知識理解20%、思考判断35%、関心意欲5%、一方、授業への取り組みでの評価内容の内訳は、知識理解10%、思考判断25%、関心意欲5%である。実験中に観察された事実、あるいは実験から得られたデータを客観的かつ正確に把握し、それらを論理的に解析することにより結果を導き出す、あるいは疑問点についても論理的考察を加えることを学生に要求し、それらの点を評価した。ほとんどの学生が実習にまじめに取り組んでいたこと、またその中のかんりの割合の学生が積極性や意欲も見せていたことが、実習への取り組みに対する比較的高い評価に結びついた。その一方、高得点者が少ないのは、客観性、正確性、および論理性がレポートに表れておらず、多くの学生のレポート評価が低いためであると判断される。座学に比べて実習の成績が低いのは、教科書的な丸暗記等はまじめにこなすが、予想しない結果がもたらされることが多い実験において、得られた事実を論理的に分析する力あるいは意欲が低いためと考えられる。レポートの評価が低いもう一つの明らかな要因は、文章の稚拙さ、不正確さ、および用いた記号や語句の定義がなされていないなど、国語力に根ざしたものである。また、不自然に似通った文章や論理展開を含むレポートが複数見られたことも低評価の要因である。本年度の成績は、平均点は昨年並みであった。不合格者は、1名であった。不合格の主な理由は、欠席によるものである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPでの位置づけは、専門基礎科目であり、卒業必修かつ国家試験受験資格取得必修である。平均点や合格率だけを見ると、内容的には妥当と考えられるが、学生が考える力をつけるという数字には表れにくい点について、これからも引き続き改善を目指していきたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、および思考判断を問う科目である。前者に関しては、おおむね妥当な内容であったと考える。思考判断に関しては、今後の課題となる。</p> <p>全体としては、おおむね妥当な内容であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「説明は理解しやすいものであった」の平均が3.1で、昨年と同様、本年度も一番低かった。説明の仕方、実習書の図表や文章は、よりわかりやすくなるように毎年見直しと改訂を加えているが、さらなる精査に取り組むことにする。特に重要な基礎知識、論理については、次年度から今まで以上に繰り返し説明するよう、心掛けたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本年度の合格率、平均点とも例年と同レベルであった。座学の成績から考えると好成績を期待したい。学生に実践の場で考える習慣、力をつけさせる工夫を模索していきたい。次年度は、本科目が生化学の講義内容と連動していることをさらに強調し、学生の意欲促進を目指す。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
食品栄養実習	2	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①講義で修得した知識を、実習を通して定着させることに重点をおいた。また、実習を行う中で食品の変化などを確認するなど、学生自ら行動に移すことができるよう指導することを心がけた。</p> <p>②学生の受講動機は「必修科目である」が100%であり、栄養士、管理栄養士免許取得には欠かすことのできない科目である。そこで、講義で得られた知識を実習を行うことによってさらに理解を深め、定着させることは非常に重要であると考えた。</p> <p>③実習前に、食品の特性などを再度講義を行い、重要な点などを提示した。実習の際には、示範を行い作成する上でのポイントなども細かく指示をした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>◎成績評価 最終的な成績の平均値は70点であり、再試対象者は8名であった。90%以上が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したものの(80点以上)は15名であった。</p> <p>◎授業アンケート評価 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値が3.8であり、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」の項目では、平均点が3.7であり、知識理解、思考判断においておおむね達成できたと考えている。</p> <p>学習量の評価において、「30分以上の準備」「30分以上の復習」を行ったと答えた学生は37名・38名/72名であった。知識の定着や理解度の確認や、実習の流れを把握する上では必要であるため、レポート内容等の改善を検討したい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着させ、さらには技術の修得も行うことができる科目であり、学生も一定の成績を収めているため、内容的にも妥当であると考えた。</p> <p>② DPからみた内容的妥当性 成績評価から90%が標準レベルに達しており、専門的な知識や技術を修得できたと判断される。また、4～5名のグループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養も身につくことから、内容的に妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価で、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をすればよいかわからなかった」とのコメントがあった。特に理解を深めてほしい所の提示をして、自主学習を促していきたい。授業の質評価において、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3と最も低かった。実習中の学生間のコミュニケーションもとれており、協力して加工食品の作成に取り組んでいたように感じたが、この点は来年度に向けて改善点を検討したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は「専門基礎分野」に位置づけされており、食品学Ⅰおよび食品学Ⅱで修得した知識を、実習を通して定着でき、さらには技術の修得についても概ね達成できた。また、グループで実習を行うことで、協調性やコミュニケーションなど、社会人としての基礎的な教養を身に着けることにも繋がったと考えられる。また、加工食品を作成する過程で、食品の特性を確認することによって様々な思考判断力も修得できたと思われるが、実習過程における食品の変化などは、教員の指示がなければ観察を行わないなどの様子が見られていた。 来年度は、その点は学生にしっかりと周知させ、自ら学ぶ姿勢を身に着けてもらうよう改善したいと考えている。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	甲斐 達男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
食品衛生学実験	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	×	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機は例年どおりで、「必修科目である」が100%に近く、「関心のある内容である」は5%未満と、極めて低いレベルに留まっている。授業を通じて、できるだけ学術的な興味と関心を引き出せるように努めた。</p> <p>②昨年度までと同様に、実験班のチームワークが円滑に進むような人員配置になるよう配慮することによって、班の協力体制を築くことに成功した。</p> <p>③より一層、各自の理解を深めるために、臨機応変に課題やレポートを課すことによって、実験の要点や技術を会得できるよう便宜を図った。</p> <p>④管理栄養士国家試験にとって重要科目である「食品衛生学」を体験的に学ぶための科目であり、卒業後の勤務先で必要となる知識や技術を習得するための科目であり、その点に気を配りながら授業を進めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された		達成された			達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①最終成績の平均値は85点であり、昨年の84点、一昨年の88点に比べ大差は無かった。再試対象者は0名であった(単位未修得の2名が退学したため)。全員が標準的レベルに達したが、90点以上の秀評価43%、38名(昨年は47%、42名、一昨年は50名)、80点以上90点未満の優評価25%、22名(昨年は19%、17名、一昨年は28名)と、これまでと比べて大きな差はなく、理想的なレベルに達している者が68%(昨年は66%、一昨年は78%)という、好ましい結果であった。</p> <p>②クラス間差については、AクラスとBクラスについて、平均点83:87(昨年は87:81)、標準偏差15:13(昨年は12:15)、秀17名:21名(昨年は22名:20名)、優12名:10名(昨年は9名:8名)、良5名:7名(昨年は8名:5名)、可9名:6名(昨年は4名:14名)であり、この学年においては大きな差は観られなかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は実験科目であり、「専門基礎科目」である「食品衛生学」をサポートする位置にあり、管理栄養士の職場において必修となるものである。学習の動機付けは容易であり、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「思考判断」「技能表現」ともに達成度が高かったことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①「説明は理解しやすいものであった」の授業の質評価で低めのポイントであった理由は、本科目が「化学」をベースにしたものであり、高校時代に化学を十分に受講していない受講生がほとんどであることが一つの大きな要因として挙げられる。この状況は昨年度も同様であったことから、次年度は、さらに、実験の目的・手法・原理の説明を工夫して改善して行きたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①基礎実習のなかでも重要なものにあたる本科目の位置づけから、成績評価を鑑みると、基礎的知識と技術の形成については十分に達成できた。 ②受講生が比較的苦手とする化学実験であり、実験目的・手法・原理の解説について、昨年に比べてより改善を押し進めたつもりであったが、さらに、判りやすくするための工夫を鋭意実施して行きたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用調理学実習	2	前期	選択	はい	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①この科目は基本的な調理ができることを前提とし、さらに応用力を養う実習であるため、まずは調理技術を学生自身で実践し、実践力を身につけることが最も重要であると考えた。そのため出来るだけ多種類の料理を作る機会を与えるため、師範を簡単にし、講義内容はテキストでの説明とポイントのみに絞り、自ら考え作れるよう促した。</p> <p>②応用調理学ではあるが、1年前期に調理科学実験の講義が無いため、学生はただ料理を作ることしか知らず、それがなぜかという、科学的根拠を知る機会がない。そのため、調理科学的な内容を含み、また今後の大量調理などの実習も見据え、食品の重量や盛付重量の把握、調味料の計算なども実習内に取り入れた。</p> <p>③事前に予習をさせるため、前週にキーワードやポイントを中心とした予習課題を配布し、実習当日の始めに提出させた。</p> <p>④学生が自ら、多種のメニューを作れるよう、師範をすべて行わず、ポイントだけに絞るという実践優先の実習形式とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績平均値は87±9.2点と標準レベルであった。この実習は実習後のレポート得点を加味するため、レポートの内容により、評価が左右された。理想レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達していたのは70名中58名であった。このうち2名は欠席したため、追試となった。到達度自己評価の平均値と中央値を見ると、「自分なりの目標に達した」が3.7、4.0点、「知識を得た」が4.1、4.0点、「課題を検討する力を得た」が4.1、4.0点、「的確に判断する力を得た」は4.0点、「学びを深める意欲」4.0、4.0点、「技術を身につけた」が4.1、4.0点であった。授業の質の評価では、「説明は理解しやすいものだった」が4.0点との評価であった。以上のことより、1年後期の基礎調理から一貫して調理技術の習得に力を入れた結果、調理技術のレベルが向上し、自信と共に意欲の向上が伺われた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。しかし、入学当初の調理技術レベルの差を1年次の基礎調理学実習と2年次の応用調理学実習で埋めること、また、個人の調理技術レベルの差をなくす努力をしたい。この課題に応えるように技術テストを行うなどの工夫をし、学生も標準の調理技術を身につけていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 コメントや学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高く、自己啓発や研鑽しようとする態度が伺われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の平均が3.9であった。これは1人1人が献立作成を行い、グループワークにより班ごとのオリジナル献立を考え、デモンストレーションおよびプレゼンを行った結果であると考えられる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。</p> <p>①初回は1年次の基礎調理学実習の復習を踏まえた実習内容にする、②15週の中間でアンケートを取り、学生の要望や困っていることなどを早期に確認する、③学生の理解度を把握するために小テストや実技テストを行い、自主的に学習を心がけるよう指導する。④この学年は実習に出席したにもかかわらず、進路の変更や学業に対する悩みから、受験資格があるにもかかわらず、定期試験を受けなかったり、試験勉強をせずに定期試験に臨んだ学生が数名見られた。実習に出席し、基本的な技術も身につけていたにもかかわらず、進路や学業、精神的な問題等により単位を取得できなかった学生がいた。今後このような学生の対応を早急に行い、未然に防止するよう、何らかの対策が必要であると考えます。⑤昨年度の学生と成績を比較すると、かなり低下していることが顕著である。学生のレベルに応じた技術指導や学習指導を心がけ、個人個人に対応した指導が必要であると感じられた。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	南里 宏樹

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎栄養学 I	2	前期	必修	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講動機に対する回答で、「必修科目である」が96.7%であるのに対し、「資格取得に必要である」と答えたものが15.0%であった。また、「関心のある内容である」と答えたものもわずか3.3%であった。栄養学の基礎的知識が、資格取得のための国家試験に必須であるだけでなく、管理栄養士の実践の場でも重要であることを、できるだけ具体的な事例を挙げて説明していきたい。</p> <p>②授業の最初に学習準備のため、オリエンテーションを行った。</p> <p>③10回目に確認テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するパワーポイントの資料は、常に修正し、よりわかりやすい内容としている。</p> <p>⑤授業内容を予習・復習するための練習問題を5月末に、また、管理栄養士国家試験の過去問とその解説を7月始めに配布し、予習復習の助けとなるようにした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない			
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。  * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終的な成績の平均値(100点満点)は、Aクラス73.2点(±9.2)、Bクラス70.8点(±13.2)、A・Bクラス合同で72.0点(±13.2)であった。80点以上のものはAクラス、Bクラス共に22%で、70点～79点がAクラス47%、Bクラス36%であった。昨年度と比べると、ABクラス合同の平均点で約1.6点低下しているが、これは昨年度に比べ80点以上の成績優秀者の割合が減少した(35%→22%)ことによると思われる。本試験の不合格者(60点未満)は、A・Bクラス全体で6名(8%)で、昨年度(9名;10%)よりやや減少していた。再試験は4名が受験し、全員合格した。</p> <p>授業評価アンケートの「到達度自己評価」では、項目(8)のコミュニケーション力・表現力(3.1点)を除いて、平均点が3.2点以上であるので、十分とは言えないが概ね教育目標を達成できていると考えている。特に、項目(2)の「知識の確認・修正および新知識の獲得」、及び、項目(8)の「職業選択の参考になった」については3.4点と比較的高い評価であった。項目(8)については、科目の性質上、限られた時間内に多くの基本事項を伝えなければならないことから、知識・理解に重点をおいた講義になるのは、ある程度、やむを得ない。</p> <p>また、「学習量の評価」で、30分以上の予習または復習を複数回実施している学生が約35%で半分を満たないことから、練習問題や国試の過去問・解説をなるべく早期に配布し、日ごろの授業の予習復習に活用できるようにしたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門教育科目・専門基礎分野」であり、卒業必修及び管理栄養士国家試験受験資格取得に必修の科目である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。期末試験の成績において学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 本科目のDPである「知識理解」(DP1)および「思考判断」(DP2)の成績はおおむね良好に維持されていることから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上より、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」において、項目(1)の「評価基準は明らかであった」、項目(2)の「学習の範囲・課題は明らかであった」および項目(3)の「説明は理解しやすいものであった」がすべて3.3点であった。十分な評価とは言えないが、学生の成績と併せて判断すると、授業の目標はおおむね達成できたのではないと思われる。学生の自由記述で、「何が大事なところかわかりにくい」という感想があったが、重要なところは繰り返し強調しているつもりであるが、まだ、十分には伝わっていないようである。配布資料のキーワードの箇所を空欄にして学生自身に書き込ませるなどの方法について検討したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>期末試験の成績および到達度自己評価からみて、基礎的知識の形成については概ね達成できていると思われる。これからは、基礎的知識を実践現場に活かせるように、できるだけ実際の事例に関連付けながら講義を進めていきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
応用栄養学Ⅱ	3	前期	必修	はい	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①応用栄養学Ⅱは、応用栄養学Ⅰに続く科目であり、栄養学科の学生にとっては、卒業および管理栄養士受験資格必修の教科である。よって受講動機は「必修科目である」が97.6%、「資格取得に必要である」が22.9%となることは、当然の回答であり、「関心のある内容である」が2.4%と低いことに関しては、応用栄養学Ⅰ(2年後期)の講義を学生の関心を引き付けるような具体的な内容で実施し、学生のモチベーションを保ちつつ、応用栄養学Ⅱの講義に臨んでもらうことが出来るようにしていく必要がある、これは毎年度の課題であるが、難しいのも現実である。</p> <p>②昨年までと同様、スライド資料を配布し、その資料には、板書を書き写すためのスペースを設けるなど、資料作成に努力はしている。また、毎回の授業終了時に、その日の講義の復習小テストを行い、解説して、提出させている。その小テストには、授業理解度を%で自己評価させ、意見や質問をうける欄も作成している。毎回、質問欄には、学生たちから色々な意見や質問が記入されており、それに必ず返答して返却するよう努力している。その結果、学生たちが意欲的に講義に臨む姿勢がうかがえる上、授業評価の自由記述にも、講義内容に興味を持つことが出来た等意見が出てきている。小テスト、授業理解度の自己評価に関しては今後も続けていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>DP1(知識理解)、DP2(思考判断)、DP3(意欲関心)に関しては、定期試験結果から評価した。試験結果は89名の受講生中、A(秀)が6.7%、B(優)が26.9%と多く、C(良)42.7%と良が一番多かった、D(可)が14.6%で、不可の学生は7名であった。また、DP4(態度)やDP5(技能・表現)に関しては、小テストへの取り組みや、レポート以外の提出物にて評価をおこなった。受講生多くが標準的レベルに達してはいるが、理想的レベル(今回は秀90点以上として試験を作成し評価した)に達している学生は6.7%と低かった。理想的レベルの学生は、まだまだ限られてはいるが、優の学生も26.9%と多いため、受講生の多くに、受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断および意欲関心に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、62%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後はもっと予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生が少なかった。特に図書館の利用に関しては、自主的学修のためにも学生に勧めていく必要がある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、専門科目であり、管理栄養士国家試験受験資格の必修科目である、卒業必修でもある。また基礎栄養学とともに、管理栄養士カリキュラムの専門分野6科目の1つに位置している。また、専門基礎科目から専門科目へのつなぎの科目(基礎から専門への入り口科目)でもあると考える。このことから、受講動機の「必修科目である」が98.9%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価では、62%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。さらにこの授業を履修する際にシラバス記載を参考にしなかった学生は67%と高かった。必修科目であるため、シラバスを参考にしなくとも、本科目の履修は卒業条件だと思いが学生たちにあると考えられる。ただし、シラバスを参考にした学生の30%が、「シラバスに沿って講義をうけることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答しており、今後も講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく予定である。初回にシラバスを印刷したものを配布しているので、これに講義前には目を通すことを促したい。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。さらに、予習・復習課題の作成を検討していく。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目の位置づけは、管理栄養士受験資格必修の専門科目で、かつ、専門基礎科目から専門科目へのつなぎや入り口にあたる科目と考える。必修科目としての履修ではあるが、学習到達度の学生の自己評価および試験結果から、概ね全てのDPを達成できたものとする。3年後期には本科目の実習科目がスタートする。この実習科目において、さらに復習を重ね、その実習の到達目標達成に効果が出るよう努力していく。本科目の予習・復習に関しても、毎回の講義で、実施を促していく。小テストだけでなく、予習・復習課題の作成も検討していく。これからも講義時の学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講の動機は、「必須科目である」98.7%、「資格取得に必要である」23.4%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。できるだけ各テーマごとに復習問題を出し、関心を引き付けるように努めていたが、「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。</p> <p>②テーマごとに確認問題を行い、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>③「本授業は初めてだったけど楽しくて良かったです」との意見があり、今後も興味を引き付ける内容となるよう努めていきたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的には成績の平均値は82(±9)点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達したが、点数にばらつきがみられ、理解度の差が生じた。目標別にみると、知識理解に関しては、95%、思考判断に関する問題は94%であった。</p> <p>学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。準備性の項で述べたように確認テストを実施し、学生の理解度を把握しながら授業を進めている。2回生から履修する科目のため、教科書に記載の内容を習得することに加え、この科目を学ぶ重要性を理解させることもまた必須である。そこで、国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から標準偏差にバラツキは見られたものの、知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、「配布資料が途中から見やすくなって良かった」というものがあった。これは今後も取り入れていきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあると考えるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養カウンセリング論	3	前期	選択	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。本科目は選択科目であるが、栄養士および管理栄養士受験資格の必須科目として位置付けられているため、多くの学生の受講動機は「必須科目である」「資格取得に必要である」との理由である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の到達度自己評価では約98%の学生がすべての項目において、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」「かなりそうだと思う」と評価しており、全体を通して項目に差がないことが示された。試験内容としては、すべて講義内容からの出題であり、講義内容の知識の修得は概ね達成されたと考える。本科目では、コミュニケーションスキルを高めることが必要であるため、授業の中でワークを取り入れコミュニケーションが高まる工夫をしている。そのため、本年度は、コミュニケーション力や表現力を高めることができたかの項目では、「まあまあそうだと思う」「わりにそうだと思う」、「かなりそうだと思う」と答えた学生は100%であった。また、達成度自己評価の中央値は4.0点であり、来年度も引き続きコミュニケーション力、表現力を高めるために授業内容を工夫していきたいと考える。</p> <p>学習量の評価では、授業の課題以外学習していない学生が64%見られた。栄養学科3年前期は開講科目が多く、臨地実習前ということもあり課題の多い時期である。自由記述でも学習をしていない理由に「忙しかった」とあり、十分な時間を確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、学生が自主的に学習に取り組むように、意識づけを図ることが今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養士取得および管理栄養士受験資格の必須科目であり、管理栄養士国家試験の栄養教育論の中で出題される分野である。特に管理栄養士として就職を考えている学生にとっては、本科目は必ず身に付けておくべき分野である。学生の達成度自己評価においては、全ての項目において約98%の学生が達成したと回答しており、また最終成績においても88%の学生が標準的レベルに達していたため内容的妥当性については問題ないと考える。また、自由記述において、「日常からカウンセリングスキルを身につけられるよう意識したい」「話すのが得意ではないけれど、この授業でいろいろな技術を学び、自分のおもったことなど話せるようになった」といった意見があり、コミュニケーションスキルが高まったことが窺える。しかし、科目の特性を考えるとDP5[技能表現]に対する達成度の全体レベルをさらにあげるために、ロールプレイを充実させる等内容を深めていきたい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>初年度の授業評価では、授業の質評価において、「口頭、文書など、何らかの形で学生の質問を受け付け、それに答える機会が作られていた」が他の評価と比べ低い値であった。そのため、一昨年度より授業後の感想や質問が自由に記述できるようにワークシートを作成し、毎時間提出としている。また、質問がしやすいように適宜声掛けをし、授業の中での疑問点や要望にその都度対処するよう努力し改善している。</p> <p>今年度の改善課題として、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」に対し、約3%の学生がそうでないと思うと回答しているため、次年度からは、評価基準をわかりやすく示すなど工夫をしていきたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目では、栄養教育に必要な基本的カウンセリング技術の修得を目的としている。人の食行動を科学的に考察するとともに、行動科学と栄養教育の関連性を理解し、カウンセリングマインドを持つことの重要性を認識した上で、管理栄養士としての資質を身に付けることも目標に掲げている。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識の修得が達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないと考える。</p> <p>昨年度の改善課題として、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」に対し、約3%の学生がそうでないと思うと回答していたが、本年度は、0%になったため改善されたと考える。来年度も引き続き工夫をしていきたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	近江 雅代

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養治療学Ⅰ	3	前期	必修	いいえ	90

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、傷病者の病態や栄養状態に応じた適切な栄養管理を行うために、各疾患の成因・病態、治療法ならびに具体的な栄養管理方法について修得することを目的としている。また、疾病別栄養管理の知識に加え、臨床における管理栄養士の役割について理解し、健康維持・疾病からの回復に大きな役割を期待されていることを認識した上で、管理栄養士としての資質を身につけることも目標に掲げている。</p> <p>本科目は卒業必修科目であり、かつ、管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、ほとんどの学生の受講動機は『必須科目である』との理由である。にもかかわらず、授業準備性について、十分とは言えず、受講後の準備も不足していた。昨年度より、事前事後学習を促す取り組みとして、確認テストの導入を試みたものの、十分な成果が得られていないのは非常に残念である。栄養学科3年前期は開講科目が多く、学外実習が始まる時期でもあり、学生も多忙を極め、事前事後学習の時間が十分に確保できないのが現状である。しかしながら、このような状況の中でも、本科目の目標達成のためには、事前事後学習を進めることは必要であり、引き続き、確認テストを実施しつつ、他に何らかの課題を提示することにより、事前事後学習に対し、より強化したいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は61(±16.9)点であり、本試験合格者は全体の68%であった。また、標準偏差が大きかったことから、学生の修得状況は個人差が大きかったことが考えられる。実際には、30名(35%)が標準的レベル(70点以上)を達成しており、理想的レベル(80点以上)は9名(10%程度)であった。また、2017年度の成績(62(±12.7)点)に比し、今年度の点数および標準的レベル以上を達した学生は同程度であったものの、理想的レベルの学生は4名(4%程度)から、2倍以上に増加しており、毎回の確認テストの導入によるものと推察される。加えて、当該学年においては、学生の能力の差が大きく、修得状況の違いが個々によって異なったため、評価の幅が広がり、点数の二極化が顕著であったと考えられる。このことは、学生の到達度自己評価において、90%以上の学生が『専門的知識および技術の修得を得ることができた』と回答していることにも通ずると考えられる。学生としては修得できたとの認識があったものの、試験による評価において十分な成績を得られなかったのは、的確な知識の修得ならびに理解ができていなかったためであり、次年度以降、確認テストの実施に加え、他に何らかの課題を提示することにより、知識確認のための強化に努めたいと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておかなければならない知識の一つである。このことは、学生の達成度自己評価の『職業選択』の項目において、全員の学生が参考になったと回答していたことから、管理栄養士が専門職業人であることに対する理解は深まったことと推察される。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答したが、今年度の学生は特に、試験成績が伴っておらず、学生の達成度に対する認識と成績との間に乖離がみられた。原因の一つとして、シラバスの説明不足、特に、具体的な達成の目安に対する学生と教員との認識の差によるものと考え、次年度はより詳細なシラバスの説明を行うこととする。また、学生の達成自己評価の高さから、内容的妥当性については問題ないものと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目では板書での記録しているため、例年、自由記述として、『字が薄い』『板書のスピードが速い』『字が汚い』との意見が挙げられましたが、今年度はできる限り丁寧な板書を心がけ、記録を取るための時間的配慮を行ったため、これらの意見はなかった。また、板書での記録しているため、大多数の学生は自分なりのノートを作成したとの回答であった。ノートを作成することにより、講義内容の整理ができ、かつ、理解も深まるものと考えられ、板書による記録への配慮を忘れず、今後も続けていきたいと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は卒業必修であり、かつ、管理栄養士国家試験(200問)のうち、28問を占める分野である。学生の多くは管理栄養士の資格取得を目指しており、また、特に、臨床分野での就職を考えている学生にとっては、必ず身につけておくべき内容である。学生の達成度自己評価においては、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたとの回答であり、講義内容等についての問題はないものとする。しかしながら、試験成績における達成度が十分であったとは言い難く、学生の達成度と成績評価との乖離を縮小するために、シラバスの活用はもちろんのこと、講義内容ならびに1回の講義内容量について、再検討が必要であると思われる。また、引き続き、確認テストを実施し、学生の的確な知識の定着に加え、その理解度を量ることにより、学生の気づきを促し、さらには、自発的学習へと繋げたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	境田 靖子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
公衆栄養学Ⅱ	3	前期	必修	いいえ	92

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	×	○	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は卒業必修科目であるが、後期に履修する臨地実習ⅡおよびⅢ(管理栄養士受験資格修得必修科目)の履修要件であることから、毎年、第1回の授業時に、本科目に課せられた要件を必ず説明しており、今年度は昨年より多少の時間をかけた。よって、履修動機「①必修科目であるを選択している」が97.3%は例年通りであるが、履修動機「②資格取得に必要である」が26.0%と、昨年より約10%ほど向上していた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	どちらともいえない		達成された	達成された		達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験の内容を例年のものから大幅に変更をした。よって、成績の平均値は、57.9(±14.1)点と昨年から20点ほど低下した。また、理想的レベル(概ね80点以上)に達したものはたったの4名と、ごく一部であった。しかし、到達度自己評価の各項目の平均点は、昨年より向上していること、「学習量の評価」で週4～5回以上の予習・復習の学習を行う者が増加したこと、「図書館、インターネットなどの活用」を行う者が増えたことから、学生の学習に対する意欲は改善されたと考えられる。</p> <p>目標別のDP到達度では、DP2の思考判断の到達度は98.6%で、昨年と同じく目標が達成されたと考えられる。また、DP3の意欲関心(95.9%)とDP5の技能表現(95.9%)についても、昨年とほぼ同程度であった。これは、小テストを行うことによる振り返り学習の成果と思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、2年時開講の公衆衛生学および公衆栄養学Ⅰを理解したうえで成立する科目であり、栄養行政についての具体的施策をについて学び、理解する科目であるため、CP上の位置づけは妥当であり、97.3%の学生が、「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」と答えていることから内容的妥当性は確保できている。</p> <p>②栄養行政(公務員)の採用は、県で1～2名の採用、市町村においては採用試験すら実施されないため、学生は「国家試験受験のために必要な科目」と位置付けられていると考えられる(しかし、職業選択の参考になったは100%と高い)が、「自分が学ぼうとしている専門分野において、的確に判断する力を得ることができた」が95.9%と高いことから内容的妥当性が確保されていると考えられる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>行政、法律、社会保障などの理解には中学高校レベルの社会科の理解が必要であるが、理解に乏しい学生が見られ、基本的な部分からの説明が必要な状態で、臨地実習および国家試験合格のための内容を網羅しようとする授業時間数が圧倒的に不足し、かつ、教員の質問に対し応答がないので、説明する具体例の数を増やすなどの工夫を行ったことで、「難しいこともわかりやすかった」との回答があった。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>小テストの回収および解説を行うことで、理解度が増した。次年度も継続して実施したい。 基本的な内容や、他の科目の復習をしていると講義時間が不足するため、次年度からが講義内容を大幅にカットし、「臨地実習レベルに必要なこと＝3年で」「国家試験レベルに必要なこと＝4年へ」と大胆に割り振る必要がある。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食計画論	2	前期	必修	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①管理栄養士資格および3年次学外実習の要件科目であり、専門科目としては初期に履修する科目であることから、履修動機としては「必修科目である」が97.3%を占める。</p> <p>②管理栄養士として栄養・食事管理を計画する過程を学ぶ科目であるが、現カリキュラムでは「食事摂取基準」を学ぶ前に本講義がある。そのため、給食提供対象の栄養アセスメントや食事摂取基準の活用までを講義前半に実施する必要がある、15回の時間数内で理解させるのは非常に難しいものがある。給与栄養量などの算定方法等が含まれるため、講義だけでなく演習を取り入れながら理解を促すことに努めている。</p> <p>③「学習準備性」としては、毎年のことながら低いと思われた。関連学会で進められている「管理栄養士養成コア・カリキュラム改訂」内でも議論されているが、「給食分野」の前に修得すべき「食品学」「調理学」の内容に関する習熟度が低いことが、集団の栄養管理を担う「給食分野」の理解に大きく影響していると感じる。管理栄養士という職種に対する理解不足も挙げられるが、この点は本講義を進める中で情報の提供はしている。</p> <p>④本科目は、後期科目「給食経営管理実習Ⅰ」の準備科目としての位置づけもしており、実習内容を意識させながらの講義を行っている。実際に、3年生前期科目「給食経営管理実習Ⅱ」で提供される給食の試食も義務化し、レポートを課している。給食の試食を通して、栄養・食事管理の実際に触</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		
(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は専門応用分野としての位置づけであり、栄養・食事管理の実務的な科目である。また、管理栄養士の職務に直結する科目の中でも、最も早く履修する科目でもある。そのため、管理栄養士という専門職種への関心を向上させる意味でも重要な位置づけを持つと考えられるため、得られた知識を実践につなげることができるような授業計画が求められる。現在おこなっている「演習を併用した授業構成」は、到達度自己評価の結果からもみて、理解を深めることに一定の効果を得ていると考える。</p> <p>②DP3に関しては、学生の自己評価から3.7ポイント(昨年3.5)という数値が得られており、また、受講態度から鑑みても多くの学生が関心をもって受講している様子が確認できている。一方で、「評価基準」平均3.6(中央値4.0)ポイント(昨年度3.5)、「説明の理解しやすさ」平均3.7(中央値4.0)ポイント(昨年度3.5)と評価しており、授業内容や方法に関しては適切なものであったと考えられる。</p> <p>以上もことから、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、後期実習の準備科目として、説明すべき重要項目が多くある。そのため一方向からの講義形式になりがちであるが、学生が理解しているか確認をとり、明確な反応が無い場合は再度説明を行い重要事項の修得を促した。このため、「評価基準」「学習範囲や課題」「説明の理解」について、昨年度の評価より高い結果となり、履修学生のレベルに適した講義の難易度および進度であったと考える。また、学生間の学習への取り組み意欲には、予習・復習をする学生が昨年度同様、半数ほどであった。多様な学生に、専門的な内容を理解させることの難しさを感じる。ただ、本科目の修得に必要な情報の提供については、配布資料や口頭で十分に行っているため、講義内容や方法に関しての意見は出ていない。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本学科の2年次前期という時期は、専門科目が多くなり、学生が今後の進路の適正に関して不安を抱く時期でもある。講義で得られた知識が、実践へと移行している現場を観察してもらうため、3年前期・給食経営管理実習Ⅱで提供される給食の試食を義務付け、専門科目への学習意欲の向上を狙っている。しかし、「学習量の評価」では、予習・復習ともに取り組めていない現状が続いており、昨年同様、その理由に「学習習慣が身につけていない」という種類の記述が認められている。学習意欲の向上以前に、「勉強の仕方」を指導する必要性を年々強く感じる。このため、本年度は専門的な内容をできるだけ平易な言葉に置き換えて説明するように努めている。また、国家試験の知識としては重要であるが、直近の講義・実習等では必要でないと判断される項目に関しては、説明を省き、国家試験受験直前の4年次で解説することとしている。教授する項目の優先順位を厳密に見極めて、授業計画を立てる必要性が要求されているように思われる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
栄養学実習	3	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養学実習では、医療現場等における栄養ケアマネジメントの考え方を実践的に理解し学ぶことを目的としている。本科目は、管理栄養士必修科目である。今回の受講動機では「必修科目である」が97%、次いで「資格取得に必要である」が25%であった。授業の予復習においては、学習準備や復習を実施したものは約3割であった。ここ数年の傾向として、予復習の実施率が低い傾向が見られる。本年度も実習の進め方や課題の量等を検討したが、今後も継続して学習準備性の改善が図れるよう検討を行っていく。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>総合的な成績の平均値は80(±7.0)点であった。本試験の成績については標準的レベルまたは理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは57%であった。学生による授業評価においては、新たな知識を得て、自分なりの目標を達成している者の割合が90%を超えていた。また、学びを深めたい者は85%、様々な課題を検討する力を得た者は90%と割合が高く、自己評価については、どの項目もあまり差が認められなかった。学習量の評価においては、半数を超えるものが予復習を行っておらず、また授業の課題以外への自発的な取り組みを行ったものは僅かであったため、学習量とその内容を吟味し、今後の改善に繋げたい。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性について、本科目は管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術の実践的な学びを指している。授業評価においては、大多数の学生(約90%)が自分の目標を達成し、新たな知識を得て、自分の専門分野について、様々な課題を検討する力を得ることができたと回答した。併せて、専門分野で必要となる技術を身につけることができたと評価している。成績評価においても、一定の成績を収めており、DP、行動目標の視点から思考・判断に関する達成度も高く、内容的には妥当であると考え。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学習量の評価において、予復習の取り組みをしたものの割合が依然低く、また、図書館等の利用割合も低かった。予復習や自発的学習の動機づけとしても、図書館での図書や関連雑誌の積極的活用を促したいと考える。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、管理栄養士必修科目であり、専門分野に必要な知識・技術が実践的な学びに繋がっていくことを目指している。学習到達度の自己評価において、約90%の学生から目標を達成し、新たな知識を得て、専門分野で必要となる技術を身につけることができたとの回答を得ており、今後も継続して、授業の進め方や内容を精査し、授業への関心・意欲が高まるよう更なる改善を図りたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	田路 千尋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
栄養教育論実習 I	3	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講の動機は、「必須科目である」97.3%、「資格取得に必要である」28.0%が大半を占める本科目は、資格取得における必須科目である。「関心がある内容である」の割合が低く、今後の課題である。</p> <p>②テーマごとに課題を提示し、グループ演習を実施した。</p> <p>③「グループで行う活動が授業内で収まるよう配慮されていてとても集中して取り組むことができた」「説明が少なく、何をしたいのかよくわからない時があった」等の意見があり、理解判断力に差がみられたことが今後の課題である。また、「発表が多くあり、話す力、コミュニケーション力、人前で話す力が身についた」との意見では、今後も資格取得後の実践力習得に向けた更なる検討をしていきたい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的には成績の平均値は79(±1)点であり、再試験対象者は、0名であった。全員が標準レベルに達した。</p> <p>目標別にみると、知識理解に関しては、95%、思考判断に関する問題は94%であった。</p> <p>学生による授業評価に関しては、「自分なりの目標を達成した」、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」、「自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等」の項目の回答もほぼ全員から得られており、目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低く、課題を出すなど次年度にむけて検討したい。そのことにより、図書館等を利用割合も増加することを期待する。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は、必須専門科目である。国家試験に直接関わる内容であるという意識喚起を目的として、国家試験において出題頻度が高い用語や知識についてはその旨を強調するような工夫をし、学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、授業の予復習時間が想定より少なかったことは、反省点である。次年度にむけては、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、課題を出し、検討を加えて授業に参加するよう促していきたい。</p> <p>学生の意見として、「何が重要な分からなかった」というものがあった。これは今後の課題として取り入れていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>必須科目である本科目は、学生による授業評価に関し、自分なりの目標を達成し、知識を確認、修正したり、新たに得ることができ、自分が学ぼうとしている専門分野の課題取得、意欲を持つ等の回答もほぼ全員から得られており、教育目標は概ね達成できたと考える。</p> <p>次年度に向けての検討項目としては、「学習準備性」「学習量の評価」等で、学生が意欲的に取り組んでいる者の割合が低いことから、毎回テーマごとのねらいを具体的に示すこと、可能な限り考える時間をとるか、予習復習課題を提示するようにすることを加えていきたい。また、学年により意欲的に取り組む傾向に違いがあると考えるため、その学年に合った授業展開を検討していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
臨床栄養学実習 I	3	前期	必修	いいえ	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年生になって、実践が問われる専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な臨床的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②授業の最初に学習準備ため、オリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の終了後レポートの提出を義務づけ、学生の復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用する実習書を昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①実習の成績の平均値は田川担当が42(±3)点(50点満点)、南里担当が42(±6)であった。不合格になったのは出席不足の1名だけであった。理想的レベル(80%以上の得点)に達したものは田川担当で72名、南里担当で70名であった。昨年度と比べると、平均点はほぼ同等であった。</p> <p>②学生の授業評価アンケートにて、「自分なりの目標を達成した」の平均点が3.6点と高く、おおむね自分なりの目標を達成できていると答えている。この点からも、教育目標は達成されたと考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門応用科目」であり、必修である。国家試験の応用問題に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。レポートにて学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考ええる。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 学生の成績は非常に高いことから、内容的には妥当であったと考ええる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①到達度自己評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.6、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が3.6と高かった。学生の成績の高さを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深め、技術を身につける努力をするとともに、学生がより積極的に実習に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②学生の意見としては、「ためになった。」と、好意的意見をいただいた。</p> <p>③インターネットを利用した学生は34%であった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①専門応用科目にあたる本科目の位置づけから、臨床的知識の形成については概ね達成でき、また、臨床的な思考判断の面でもある程度、課題は達成できたと思われる。今後、関連科目である後期の「臨床栄養学実習Ⅱ」に引き継いで、臨床栄養の実際的な知識・技術の習得を図っていく予定である。</p> <p>②レポート課題を課したことで、学生が授業過程を振り返り実習内容について自分で考えるを加える時間ができた。今後、予習課題の提示などでさらなる改善に努めたい。</p> <p>③「毎回の実習のねらいを具体的に示す」、「レポートの課題に復習課題を意識的に加える」などの改善をはかり、学生がより主体的に実習に取り組み、実習で得た知識・技術の定着ができるようになっていきたい。</p> <p>④配布物(実習書など)に関しては、学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
給食経営管理実習Ⅱ	3	前期	選択	はい	89

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であるが、栄養士・管理栄養士資格必修科目である。そのため、「必修科目である」と答えている学生が大半であり(92.8%)、また「資格取得に必要である」とする学生が31.9%であった。以上のことから、当該学年における資格取得への意識は高いことが示唆され、学習準備性に関しても十分であると判断される。本科目は、2年後期・給食経営管理実習Ⅰ(以降、実習Ⅰ)と連続した内容となっているため、実習に際して必要な内容は実習Ⅰで修得済みである。この前提の下で、各学生が給食のマネジメント行う実習となっているため、非常に自主性が求められる内容となっている。今年度は、給食提供実習に入る前に十分な演習の時間をとり、実習Ⅰの振り返りをする時間を設け、また、学生との時間外の打ち合わせにも十分な時間を設けることにより、スムーズな給食マネジメントが行えるよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>本科目の成績平均点は81.5点(昨年度84.8点)であり、学習目標は概ね達成されたと考える。学生の自己評価においては、「知識を確認、修復したり、新たに得ることができた」98.9%(昨年度100%)、「課題を検討する力を得ることができた」95.2%(昨年度97.8%)、「学びを深めたいと意欲を持つことができた」97.6%(昨年度98.9%)と高く評価しており、DP1(知識)およびDP3(意欲)については概ね達成されたと考える。また、学習量の評価では、「1回30分程度以上の準備をどれくらいしたか」に対して55.2%(昨年度51.8%)の者が1回以上は準備をしたと回答しており、学年全体を俯瞰して、積極的な取り組みの姿勢が得られたと考えられる。一方で、課題以外の取り組みで「何をすればいいのかわからなかった」という意見があったが、自主性が求められ、グループ活動が主体となる本実習において、このような意見が出ることは非常に残念である。一部に主体性をもって実習に取り組むことができていない学生がいることが明らかとなった。また、授業準備のために雑誌(33.7%)、文献検索(18.0%)、インターネット利用(42.2%)については昨年と同水準で活用されていた。栄養情報の提供を行う上で、図書館の利用を積極的に行ったようである。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 &lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>臨地実習Ⅰの準備性を高めるための科目でもあるため、特定給食施設の実務に則した内容を心掛けている。学生の自己評価では「専門分野で必要となる技術を身につけることができた」96.4%、「職業選択の参考になった」98.8%と、高い評価が得られているが、昨年との違いは数名の学生が「少しそうでないと思う」と評価している点である。後期科目である臨地実習Ⅰに向けて、専門職に対する動機づけの強化につながったと考えられ、カリキュラムマップ上の位置づけは適当であると思われる。以上のことから、内容的妥当性は適切であると考えられるが、一部の学生に管理栄養士への学習意欲が乏しいものがあることが推察される結果が散見されるため、次年度以降、同様の学生に対する指導方法を検討する必要があると考えている。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価については、全項目とも平均して3.6～3.8ポイント(中央値4.0)と高いことから、授業の内容については適切であったと考える。さらに、「学習量の評価」と合わせて検討すると、学生が科目に対して高い準備性を持ち、また授業を受講するにあたりモチベーションを維持していたということが推察されることから、授業の進め方についても適当であったと考える。一方で、情報収集の点ではインターネットの利用の頻度が高いため、引き続き、情報の正確性を見極めるメディアリテラシーへの指導強化をしていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>学生の到達度自己評価の結果から、管理栄養士として必要な知識及び技能に関する理解は深まったものと推察される。今後も、専門職として実務に携わるための指導を心掛けていくこととする。しかし、一部の管理栄養士の職務に対してのモチベーションが低い学生が出現している点に関して、実習を円滑に進める上でも指導方法を検討していこうと思う。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	青木 るみ子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
総合演習 I	3	前期	選択	はい	88

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①3年後期・臨地実習 I の事前指導を実施するための科目である。履修動機としては「必修科目である」が94.8%を占め、「資格取得に必要」が28.6%を占める。管理栄養士・栄養士資格必修選択科目であるため、前述のような結果となった。</p> <p>②臨地実習に向けての、一般常識から特定給食施設に関する専門的知識の復習という広範な内容を盛り込んでいることから、オリエンテーションにて全体の計画を詳細に説明するようにしている。</p> <p>③特に、臨地実習に向けての種々の準備を行う時期に関しては、学生自身にスケジュール管理を徹底するように指導し、随時、一斉メールを利用することで周知を図っている。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない		どちらともいえない	どちらともいえない	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績評価の平均値は70.95点(昨年度77.7点)であり、再試対象者は5名(退学1名含む)であった。授業評価の「到達度自己評価」を見ると、「判断力」「課題検討」「意欲」「技術習得」「コミュニケーション力」等に関する自己評価は平均3.6(中央値4.0)であった。しかし、「学習量の評価」では、48.2%(昨年度67.4%)の者が予習に、41.0%(52.8%)の者が復習に取り組んでいるが、年々減少傾向にある。一方で、「図書館利用」に関しては、「図書、雑誌」25.3%(昨年度43.8%)、「データベース」14.5%(昨年度23.6%)、「インターネット」36.1%(昨年度55.1%)と昨年より利用者率の激減している。以上のことから、自ら情報を収集し、学習しようとする積極性があり認められない結果となった。DP1、DP3、DP4が達成できたとは言えない。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、3年後期より開講されている臨地実習 I の準備科目である。特に臨地実習 I は、最初の学外実習となり、社会規範や礼儀作法から指導を行わなければならない。そのため、専門科目の位置付けてありながら、専門知識の指導のみに重点を置くことができないという矛盾を抱える。この点に関しては、昨年度の反省も踏まえ、専門分野担当の先生方との連携を通して、弱点の補強に努めた。臨地実習 I の事前指導科目としての位置づけでは、内容的妥当性は高いと思われる。新カリキュラム適用学年までは、専門科目の修得が臨地実習 I の事前指導に追いついていない現状があるため、今後も新カリキュラム開始まではフォローを要する部分が多いことを念頭におきたい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」では、3.7ポイント(中央値4.0)と高い評価であった。昨年度ポイントが低かった「学生からの質問の受付」に関しては、時間外の質問に対して丁寧に対応した結果、評価は向上している。しかし、本科目と併用して複数の科目を担当し、尚且つ、授業時間外の指導を行っているため、現状以上の時間を割くことは厳しい状況にある。臨地実習担当教員(特に最初の実習)の時間外の学生指導については、相応の評価を頂きたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>科目は、学内で得た給食経営管理に関する知識と技術を学外実習(臨地実習Ⅰ)で実践可能とするための事前指導期間に位置付けられている。事前学習ノートによる知識の振り返りの必要性について十分に指導したため、実習前の予習項目が明確になったと考える。一方で、社会規範に関しては、外部講師によるマナー講習を実施するなど、担当教員からも十分な指導が行えたと感じており、目標とする理想レベルに近い状態まで到達できたと考える。後期科目である臨地実習Ⅰの実習先指導者からの評価は非常に高い結果となって帰ってきており、本科目における実習事前指導の効果が証明されたと考えている。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
総合演習Ⅱ	4	前期	選択	いいえ	84

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目では、『臨床栄養』、『公衆栄養』および『応用栄養』の栄養学分野において、最新情報や重点事項を解説する。『臨床栄養』については、さまざまな症例検討を行い、これまでに学んだ専門的知識を統合して、適切な栄養管理ができる実践的能力を養うことを目的としている。『公衆栄養』では、保健・福祉・医療と連携した行政栄養士の業務内容について、臨地実習Ⅲ（保健所での実習）にて修得した知識と統合し、再確認を行うことを目的とする。『応用栄養』では、食事摂取基準や身体活動基準、授乳・離乳支援ガイド等の厚生労働省が通知するガイドラインを活用し、各ライフステージに対応した適切な栄養管理が出来る力を養うことを目的としている。</p> <p>本科目は管理栄養士受験資格の必須科目としての位置づけであるため、学生の受講動機は『必須科目である：67.1%』『資格取得に必要である：52.6%』との理由が多かった。授業準備性について、例年通り、事前に資料を配布して予習を促すこと等を行った。今年度は約50%の学生が、5回以上の予習（1回30分以上の準備）を行っており、復習に関して約20%の学生が5回以上実施していた。約50%の学生が5回以上の予習をしていることに関しては、この講義への学習（受講）意欲の高さがうかがえた。しかし、準備・振り返りそれぞれに関して、まったく実施していない学生も、24.3%（準備）・38.5%（振り返り）と多く見られたため、次年度以降も学生の様子を見ながら、事前事後学習の強化を継続していきたいと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータル成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>本科目の本試験成績の平均値は65(±12.3)点であり、若干、標準的レベル(70点以上)には至らず、また標準偏差が大きかったことは、学生の修得状況における個人差が大きかったものと考えられる。レベル別にみると理想的レベル(80点以上)は8名(9.5%)、標準的レベル(70点以上)は25名(29.8%)であり、60～69点が27名(32.1%)と多い。40%程度の学生が標準的レベル以上を達成できたものと考えられ、昨年度の25%よりも高い結果であるが、残りの60%程度の学生は標準的レベルに至っておらず、次年度以降も標準的レベルに達する学生の割合を増やすことを目標に、教授法の見直し、予習の実施、復習テストの導入等、次学年の学習意欲や習得レベルに合わせてさらなる強化が必要になると考える。また、学生の到達度自己評価では、90%以上の学生が専門的知識および技術の修得を得ることができたと回答していたにもかかわらず、90%程度の学生が理想的レベルの知識と技術の修得、つまりは、実践的能力の獲得には至らなかった。次年度以降、上記に記載したように教授法の見直し、復習テストの導入といった何らかの知識確認のためのさらなる強化の必要性が明らかとなった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じであるため、本科目に対する達成度が高いことは明らかである。学生の達成度自己評価においても、90%以上の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたと回答している。しかし、試験成績は標準的レベルを達成できた学生が約40%と半分にも満たないため、学生の達成度自己評価と試験の点数の間に乖離がみられる。しかしこの教科に対する学生の受講意識と自己評価が高いことを鑑みると、講義の内容的妥当性については問題ないものと考え、次年度以降も学生（学年）の理解、修得レベルに合わせた講義進捗と講義内容の検討を試みる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の目標達成状況ならびに内容的妥当性に問題がなかったことから、本科目の内容等についての課題はないものと推察され、今後も引き続き、高い達成度を目標にしたいと考える。また、この演習における図書館、学術データベースの利用が低いと、事前・事後学習に図書館の活用も進めていきたいと考える。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>本科目は、臨地実習Ⅱ・Ⅲを終えた4年次前学期に開講しており、管理栄養士国家試験の受験資格の必須科目である。専門職業人である管理栄養士を目指す学生が受講しており、学生の到達目標もほぼ同じである。学生の成績は普通レベルであるが、達成度自己評価において、大多数の学生が専門的知識・技術の修得ならびに判断する力等において、達成できたことから、講義内容等についての課題はないものとする。今後、より一層の学生の理解を深めるためには、学生の事前事後学習を促すための対策が必要であると思われる。次年度以降も資料配布ならびに確認テストの継続、さらには第1回講義開始前のオリエンテーション時における事前事後学習の推進(今年度も講義履修時にシラバスを参考にした学生(27%程度)、シラバスに沿って授業計画を立てた学生(25%程度)や教員のオリエンテーションに沿って授業計画を立てた学生が少なかったため)、学習法の具体例の提示等、事前事後学習に対し、さらに強化していきたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
行動科学	2	前期	選択	はい	36

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考に記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講生との対話ある講義を心掛けたいと準備した。講義の導入に当たり学生の興味・関心のある内容を話すために、毎講義の最後に本時の講義に対する感想や質問を書いてもらうことにしている。本時終了後にその内容を精査して回答や問題定義を考えて講義に臨んだ。このことでスムーズに講義の内容には入れた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>今年はかなり多くの人数の講義だった。これに対する評価は一定の成功を示していると思われる。それは以下の3点においてである。①成績評価のほとんどが平均以上の結果を出している。②自由記述の欄に、「わかりやすく、面白い講義であった」と講義者の狙い通りのコメントが見られた。③学生の出席状況からみて、欠席傾向のあるものを除けば、95パーセント以上の学生が講義15回の90パーセント以上の頻度で参加していることは学習意欲の高さが示唆される。ただやはり教室環境が狭い印象であり学生には申し訳なかった。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>講義の経験は多いけれど、今年度も達成状況の総括的評価は3段階A,B,C評価のBの中であつたように思う。授業者の体調、意欲、内容の鮮度。それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。今年度もその数においてやはりBの上であつた。努力を重ねたい。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>シラバスで年度当初の学生に期待した行動目標は概ね達成出来たと思う。しかしまだ授業中に集中力が途絶える学生が幾人か存在する。注意の仕方に工夫をくわえてきたが、全員をかなりの集中度に持っていくのは容易ではない。今年度取り組んだ映像や教師の発問、討議話題の挿入などまだ工夫の余地を継続して続けたい。がんばりたいと思う。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>講義の道を究めるのは厳しい。今年度の達成状況の総括的評価はやはり3段階A,B,C評価のBの中ではなかろうか。授業はアートというのが私の持論であるが、授業者の体調、意欲。内容の鮮度、それに受講者の体調や意欲と能力、抱える日常の悩みなどが微妙にからみ合う相互行為である。なそうとしても良い授業ができない場合もある。しかし良い授業ができたときはすぐわかる。終了後に出ていく学生の顔に如実に表れる。本年度はその数においてやはりBの上であった。努力を重ねたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	目野 郁子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生活と環境	2	前期	選択	いいえ	10

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講生全員の受講動機が単位を確保するためとしている。いかに興味関心を持たせるかを課題に、従来の内容に食料問題など栄養に関する内容を新たに含め講義を行った。</p> <p>②講義内容の理解を深めるために講義の最初に前回の講義の復習を行う時間を設けた。また、習熟度に差が出ないように、重要な箇所は繰り返し説明し、その際に質問を受ける時間を設けた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①総合評価の平均値は70点(±7.6)であり、受講生全員が標準的レベルに達していた。また、受講生の22%が理想的レベル(80点以上)に達していた。</p> <p>②学生の到達度自己評価は、「知識理解の到達度自己評価平均値は3.1」、「知識を確認、修正、新たに得ることができたは3.1」、「事象(自然・人・社会)を理解する視点や考え方を得ることができたは3.3」であった。</p> <p>③授業の質評価は、「課題の評価基準の明確さ3.4」、「学習の範囲・課題の明確さ3.1」、「話し合う・発表する3.3」、「質問を受け付け、答える機会があった3.3」であった</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目では身近な生活の中から自然と環境および環境問題に関心を持ち地球規模の環境問題へと学びを深めていく。この内容は、一般教養としての基礎知識を培い幅広い教養を身につけるという科目の位置づけとしては妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 知識理解の達成度は70%、上記に記載した到達度自己評価からも内容的には妥当であると考え。</p> <p>③まとめ 上記で述べたように、本科目のCP上の位置づけもDPを達成するための講義内容についても妥当であると考え。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>上記に記載したように学生の半数以上が、1回も30分以上予復習に時間をかけていないと回答している。授業の振り返りを毎時間実施したため、全員が標準レベル以上には達しているが、理想的レベルに達している率は低い。毎回の講義にミニ課題など出し、図書館を利用するような工夫を取り入れ、学習量を増やす工夫をする。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>一般教養科目としての本科目の位置づけから、一般教養と基礎知識を培うという目標はやや達成できた。本科目は福祉学科との合同講義であるが、評価平均点に10点以上の差がでている。受講生全員の受講動機が単位取得のためか、受講姿勢も消極的であり極めて残念であった。いかに講義内容に興味関心を持たせるかには課題が残った。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	三浦 元喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
情報の表現法	2	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>授業の実施にあたっては、情報の表現や構成に関する知識に加え、技能をしっかりと身につけてもらうことに重点をおいている。ただし、単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうため画像を含めたWebページの作成や、簡単なプログラミングをとりいれている。</p> <p>知識定着に関しては、授業内で小テストを頻繁に実施したり、期末の確認テストを行ったりしている。また、講義での説明資料をすべてWeb上で閲覧できるようにしている。</p> <p>技能定着については、授業内での円滑な演習と、授業時間外の活動がシームレスに行いやすいように、Webブラウザ上での演習環境を提供している。また、Powerpoint/Excel/Photoshop Elementsの課題演習と、Webページ作成/Processingプログラミング作品作成のグループ活動および発表会を実施した。</p> <p>受講生の6割強が、受講動機として「資格取得に必要である」ことを挙げている。あと、「単位数確保」「関心のある内容」が主要な動機である。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。  <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>到達度自己評価において、「(2)知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均点が3.7、中央値も4.0と、高いことから、教育目標は達成されたといえる。単なるPowerpointやExcelの使い方だけでなく、より汎用性の高い知識・技能を身につけてもらうことを狙っていることから比較的難易度が高い講義内容であったが、ほとんどの到達度自己評価の中央値は、5段階評価の3番目にあることから、受講者は学習内容について、ある程度の自信をもつことができたといえる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>Processingプログラミング導入によって、コンピュータで扱える色の特性や、図形による表現を体験的に学習できるため、利点があると考えている。</p> <p>アニメーションやインタラクティブな表現については、ある程度高度な知識が必要となるが、学生は興味をもって、自発的に学習や演習に取り組んでいたので、今後もぜひ継続していきたい。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質の評価」において、すべての項目の中央値が3.5以上であることから、授業の進め方に問題はないと言える。平成30年度から、一部の資料は紙で配布し、学生がメモをとったり参照しやすいようにした。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>* 総括的評価 * 比較的難易度の高い内容を扱っているが、学生に講義の方針や意図が十分に伝わり、自信につながっていることが、自己評価の結果に現れている。</p> <p>* 課題 * 受講者のコンピュータスキルやリテラシーのばらつきによる影響をなるべく排除していきたい。H30年度は、プログラミングエディタにおいて自動補完機能を導入し、入力時の負担を軽減できるようにした。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
現代と教育	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機は興味関心によるもの2、単位のための7であり、例年通り単位のための履修という意味合いが強い。授業は歴史的事例の検討が中心となるため、いかに興味を持ってもらうかが授業準備段階のねらいであった。そのために、導入部分に学生の体験を結びつける現代的な遊びの特徴を設置した。男の子の遊び、女の子の遊びを比較しながらその特徴をとらえ、共通点と相違点から見える現代の遊びの様相を大まかに理解させる教材を工夫した。今期は「妖怪ウォッチ」のような大ヒットした遊びがないため、ポスト妖怪ウォッチについて新しいテクノロジーとの関連から紹介し、学生の遊び体験とどのような点が変化してきたかに興味を持たせ、その後の過去に遡った遊び文化の歴史的展開への土台作りを心がけた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全学科平均点75.5点。栄養学科平均点72.5点。秀0、優3、良3、可3。不可がないのは評価できるが、成績上位層と下位層の比は1:2であり、受講動機の単位取得のためと興味関心の比率と対応している可能性がある。特に秀がないのは他学科と比較して物足りない。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>例年の傾向からすると受講動機の側面からいえば、単位のために受講しているところから出発している。しかし、学科の位置づけからすると、社会/文化/歴史に触れることは不可欠である。また、教職課程在籍者も含まれるため、教職教養としての意味も大きい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>受講動機が上位層の薄さに関連していると考えられる。 今回の授業改善のポイントとして、出題する問題形式の形で授業内容の理解を促す点にある。授業を行った内容について、例えばこのような問われ方をするとというまとめプリントを配布した。このやり方は例年も行っているが、今回はまとめプリントを記憶しても役に立たず、プリント内容をこの程度まで理解していれば問題文が変わっても対応できるし、そのような理解の仕方が必要だという解説を行った。 具体的イメージしにくい箇所については例年通り、以下の様な取り組みを行った。 (1)江戸時代の解説という高校の教科書的な補足ではなく、テーマと関連して理解すべき時代の特徴を代表するエピソードなどを通じて理解を深める教材を準備する。(2)画像、動画、実物教材など、見て聞いて触れる学習機会を増やす。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>テストにはただ資料やレジュメを見直すだけでは対応できず、授業中の解説等を聞き、ノートを取らないと対応できない問題も複数含まれていた。受講動機がそのまま受講態度に表れてしまったと考えられる。今後とも学生の興味関心を喚起できる授業を心がけたい。 次年度も今年度同様の理解度が期待できるとすれば(興味関心という動機づけが必要だと思われる)、現代社会の理解のスキルを向上させるというより応用的な側面にも働きかけたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	浅田 壽男

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
英語Ⅲ	2	前期	選択	いいえ	2

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>学科の特徴を考慮して、テキストには小説類ではなく、最新の科学の様々なジャンルのトピックを取り上げたエッセイを用いた。英語も難易度がやや高めであり、科学の諸分野の専門用語が頻出して、決して易しいテキストであるとは言えませんが、内容が誰にとっても興味を抱かせる科学の話題のエッセイであるので、内容の面白さに引っ張られて、確実に読みこなせることができましたし、栄養学に関する様々な科学的知識も習得できたと考えています。15回の授業の中間時点で小テストを実施したことは、学期の前半で学んだことを、しっかりと復習してもらうために適切な方法であったと考えます。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学期末試験の素点も70点前後を基準に作成しましたが、平均点が90点を優に超え、また授業中に実施した復習テストでも平均点が90点近かったことが上記の判断の主な根拠ではありますが、授業中での質疑応答、意見の交換、議論などが大変スムーズで活発であり、また和やかな雰囲気でも授業が進められ、受講生は一度も欠席することなく、積極的に受講してくれたことも上記の評価につながっています。テキスト本文の和訳や内容理解、さらにはテキストに設けられた問題の解答などの面ではたいへん満足のいく結果でしたが、授業アンケートの記述を参照する限り、受講生それぞれにとって関心の深いトピックを、自主的に図書館やインターネットを利用して、独力で情報収集するところまでには至らなかった点を差し引いて「やや達成された」と評価しました。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP, CP, カリキュラム・マップにおいて、本科目は英語力の涵養という基本的目標を持つと共に、栄養学科の履修科目という面も合わせ持つので、十分に妥当な位置づけであると考えます。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>科学の諸分野のトピックを取り上げたテキストでありましたので、通常の英語の授業の進め方、つまりテキストの読解演習と問題解答と解説に止まらず、そのトピックに関する科学的知識や情報を盛り込んだプリントを別途、作成して、適宜配布し、内容理解が一層深まるように努めました。また、テキスト本文の日本語訳や問題の解答例も、授業中の板書や口頭説明などを受講生自身がノートするだけでなく、別途、テキスト全頁の難解な構文の解説と全文の模範訳と全問題の解答例を作成して、いつ、どのような場面でも細かく復習できるように完全なプリントにして配布しました。受講生がきわめて少人数であったために、ほぼ個人指導に近い理想的な形で、細かく対応できたと思います。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>詳細はすでに上の各項目に記しましたが、今回の受講生が2名という、ほぼ個人指導に近い、圧倒的に少人数のクラスでは、多くの面で理想に近い形で授業が進められ、受講生側には和やかな雰囲気でも自由に発言でき、一度も休まず授業に出席でき、授業担当者には受講生一人一人の英語力も授業内容の理解度も細かく見て対応することを可能になった授業でしたが、今回の理想に近い授業を、今後は、大人数の他のクラスでも、いかに実施し、実現するのが、当面、最大の課題になると考えます。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	坂巻 路可

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
高齢者支援学Ⅰ	2	前期	選択	はい	17

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	○	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、福祉分野、保健医療分野、工学・技術分野の専門性と特徴を活かしつつ、アクティブシニアが活動的に生活し続けるための支援方法等について学修することを目的としている。授業は、2日間の集中講義で、初日は九州歯科大学、西日本工業大学、本学の3大学による合同授業が行われ、2日目にはグループワーク形式で演習が行われた。本年度の受講動機では、「単位数の確保」との回答が64%で最も多く、次いで「関心のある内容である」(42.9%)であった。また「先輩に勧められた」(7.1%)との回答も見られた。予復習を行った学生は、殆どみられなかったが、要因として集中講義であり、また、専門分野の異なる他大学の教員による連携講義のため、予復習を効果的に行うポイント見つけるのが難しいことが推察された。次年度に向け、講義の進め方やレジュメの改善を図りたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された		達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>総合的な成績の平均値は86(±1)点であった。殆どの学生(100%)において、理想的レベル(概ね80点以上)に達していた。学生による授業評価においては、自分なりの目標を達成し、また、新たな知識を得ることができたほぼ全員(100%)が回答していた。また、学びを深めたい者、様々な課題を検討する力を得たとの回答も全員から得られており、知識理解の観点、思考判断の観点から教育目標は概ね達成できたと考える。</p>					
<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>						

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、学生による授業評価においては、ほぼ全員が新たな知識を得ることができており、また、専門分野において課題を検討する力、的確に判断する力、必要となる技術を身に付けることができたとの評価を得ている。成績評価においても、一定の成績を修めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>DP、行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から知識、意欲関心に関する達成度は比較的高く、本科目の内容的妥当性は問題はないと思われる。</p> <p>まとめ</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価においては、テスト等の評価基準、学習の範囲や課題などについて、平均点は3.6～4.2であった。評価基準や学習課題は明らかであり、また、授業中に学生が参加する機会、学生の質問に答える機会が作られていたと考える。更に、グループワークの際に約8割の学生がインターネットのホームページ等を積極的に授業に活用し、他大学の学生と協働し意見を交換しながら学びを深めていた。また、昨年度は、「パワーポイントを作成する時間が少なかった」との意見が寄せられたため、本年度は授業の進め方を検討し、時間配分の改善を図った。そのため、パワーポイント作成時間に関する意見は特に無く、本年度の授業の時間配分を参考に次年度以降の授業改善へ取り組みたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>学習到達度の自己評価から、殆どの学生(100%)が目標を達成し、新たな知識を得ており、また学びを深めたいとの回答を得た。次年度に向けこれらの評価を維持または向上できるよう、学習教材の内容や授業の進め方を検討する。また、学習量の評価においては、事前事後の学習への取り組み状況が改善できるよう、授業内容や配布資料等について引き続き検討を重ねる。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	田川 辰也

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
疾病診断治療学 I	2	前期	必修	いいえ	75

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①2年生になって、専門科目の履修が増加し、特に医学的知識が問われるようになってくる。チーム医療の一員として栄養士、管理栄養士に必要な基礎的な医学知識および考え方を修得できるよう心がけた。</p> <p>②初回の授業の最初に学習準備ため、シラバスを用いてオリエンテーションを行った。</p> <p>③授業の最初と最後に小テストを行い、学生の復習への意識を高め、学習の進捗状況を確認するようにした。</p> <p>④授業で使用するスライドのレジュメを昨年より修正し、よりわかりやすい内容とした。</p> <p>⑤学生の予習、復習については、予習した学生は40%を下回ったが、復習した学生は50%を超えた。自由記述では、「授業はわかりやすかった。」という意見をいただいた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された			
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①本試験の成績の平均値は96(±8)点であり、不合格者はいなかった。理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは100%であった。</p> <p>②昨年度と比べると、本試験の平均点は8点上昇した。</p> <p>③学生による授業評価においては、「興味をもって聞くことができた。」「説明がとても丁寧で、分かりやすかった。」「生徒思いで授業が受けやすい。」「小テストで、勉強がしやすかった。」など、ポジティブな意見をいただいた。今後とも、わかりやすいスライド、資料、授業に心がけるとともに、授業前後の小テストを続けていきたいと考える。</p> <p>以上から、教育目標は達成されていると考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は「専門基礎科目」であり、必修である。国家試験に多く出題される内容であり、重要性は学生にしっかり伝えている。学生も復習に力を入れており、定期試験にて一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から、知識判断、思考判断、技術表現、態度に関する達成度がすべて高かった。課題された領域はすでに内容を修正しており、すべての領域において成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.57、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.1と高かった。学生性の成績とを踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたいと考える。</p> <p>②学生の意見としては、「とても分かりやすかった。」という意見を多数いただいた。今後とも、範囲が広く、難しい内容であるが、さらにわかりやすい授業になるよう改善していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>①専門基礎科目にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識の形成については達成でき、思考判断の面でも課題は達成できた。今後、結びつきの強い科目である後期の「疾病診断治療学Ⅱ」に引き継いでいく予定である。</p> <p>②授業過程を振り返ってみたとき、授業の最初と最後に復習・確認の小テストを行ったことで、学生が検討を加える時間できた。予習課題の提示などで改善を図りつつ、さらなる改善に努めたい。</p> <p>③以上から、毎回の授業のねらいを具体的に示すこと、小テスト等で考える時間をとり、復習課題を意識的に提示するようにすることを続けていきたい。</p> <p>④配布物(授業のスライドのレジュメなど)に関しては、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
教職概論	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①昨年の実績及び教職をめぐる現況から、今回も視聴覚教材を活用して「子どもの心をつかむ」技法について学ばせたが、教材のblue-rayディスクが使えず、急遽ちがう教材を使うことになった。AV機器のブラッシュアップをお願いしたい。</p> <p>②前年度の講義の感触を踏まえて、講義内容をわかりやすく調整している。</p> <p>③小論文形式でふり返りの質を深めることとした。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない	どちらともいえない
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①成績の平均は77.67であり、他学科の平均より低い。かといって学科別に講義をしているわけではないから理由はわからない。</p> <p>②到達度の自己評価は全項目の中央値が3.0であり、全項目の平均も3.1～3.3であった。ほぼ「まあまあ」というところに入れている。授業評価に飽きているのかもしれない。</p> <p>③授業の質評価到達度と数値的には同様の評価であった。なので、なんとも判断しがたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職科目であるにもかかわらず、受講動機が多岐にわたっている。「資格取得」が多い(87.5%)のは当然だが、「関心のある内容」「単位数の確保」「GPAをあげる」などよくわからない理由が疑問である。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に  
単にお示ください。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し  
ください。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、イン  
ターネット利用」学生の意見など

①「授業の質評価」から判断してもう少し丁寧な説明をするように心がけたい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。

①もっとわかりやすい授業改善に取り組まなくてはいけないだろう。

②blue-rayディスクが使えるようにしてほしい。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	中島 俊介

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育心理学	2	前期	選択	いいえ	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>平和で幸せな地域の実現と、より良い社会の建設は教育の成否にかかっている。教職を目指す学生には良い社会の形成に関わるという責任と自覚を持って授業に臨むよう学生に求めてきた。シラバスに記載したように教育に貢献できる心理学的知見を紹介しながら「理想を失わない現実主義者」としての教師になる内容を出来るだけ厳選して授業に臨んだ。評価アンケートの結果をみるとおおむね達成できたと思われる。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>達成の評価の根拠は定期試験の内容である。しっかりと授業者の求める論点に従って書かれている学生が多く、授業者の意図をよく読んで内容を理解していることがわかる。(客観的データとして学生の成績平均を参照して頂ければ分かる)授業アンケートの集計結果も満足のいくものであった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>昨年度の取り組みでもあったが学生が達成すべき目標を4点シラバスに記載しているが、授業のはじめに説明しておいたこともあり、学生の自己評価および授業者の目から見ても満足のいくものであった。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>言葉には力があるけれども「映像は100の言葉に勝る」と思われる。スマホ時代の真ん中にいる学生たちには言葉による講義だけでは集中力が続かないことは経験上理解している。その為に毎回の授業では映像を見て考える時間を取っている。アンケート結果をみるとこれは概ね好評である。ただ学生らの意見の中には出来るだけ授業者の話をききたいという要望もあるので今後この点を改善して新たな方法を試みてみたいと考えている。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>昨年同様に概ね年度当初の授業目標は達成したものと考えている。しかし多様性と個別化を体現している現代の学生のニーズに対応してグループワークや発見学習など多彩な講義時間の運営方法の工夫とさらなる知恵を出していく必要性を痛感している。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	大庭 正美

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
特別活動論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学習指導要領における特別活動の位置づけや特質、内容などについて基本的な知識理解を中心にしながら、小中学校での指導の実際についても取り扱い、実践的な態度の育成に資する授業に努めた。そのため、できるだけ実践事例の映像資料を活用していった。</p> <p>②授業の終末には授業内容を振り返り、シートに記入させるようにした。そこで出された気づきや疑問などを次の授業の導入で取り扱い、再確認できるようにするとともに、深い学びにつながるように努めた。</p> <p>③授業の内容に応じて、学生自身の学校での経験を想起させ、重ねて考えることができるように促した。そうすることで、理論と実践がつながりやすいようにし、就職後のイメージをもちながら学修できるよう配慮した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
<p>授業後の振り返りシートの内容及び試験の結果をもとに判定したトータルの成績において、70点以上が12名中8名、そのうち80点以上が2名であった。また、到達度自己評価においては、すべての項目とも3.6～3.8であった。</p> <p>授業中のノート記録や振り返りシートの記述内容は授業が進むに従って充実していった学生が半数にのぼり、学生の学びが徐々に深化していったものと思われる。したがって各項目及び全体を通して「やや達成された」と判断した。</p>						

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>卒業後、小中学校の養護教諭をめざす学生にとって、健康教育や学校経営と密接につながっている特別活動の指導内容は非常に重要である。そのような点から、学生の自己評価での項目「専門分野の課題を検討する力」「学びを深めたい意欲」など、比較的高評価の項目があるとともに、各授業後の振り返りシートの記述内容などから、本科目の内容的な妥当性は高いと判断できる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」項目の(3)(4)(5)の評価が比較的高かったが、学生からの質問に答えたり、考察に助言をしたりする点で成果が上がったと考える。見やすいレジュメや資料、学校現場の実際場面がイメージしやすくなる映像資料などを活用するなど、学生の意見を受けながら授業改善に努めた。今後も、その方針で授業を進めていきたい。</p> <p>ただ、図書館利用や事前準備などの評価から、学生の自発的な学修が十分とはいえなかったこと、演習的な内容が少なかったことなど、今後改善していく必要がある点だと考えている。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>将来、養護教諭をする可能性のある学生であるため、健康教育との関連や保健指導との関連などを想定しながら授業を進めていった。特に、教育課程における特別活動の位置づけや役割など、特別活動の教育的な意義については繰り返し指導するように進めた。その結果、毎回の授業後の振り返りシートの記述などから、教職に対する意欲が向上していったことが読み取れた。</p> <p>特別活動全体の内容に触れ、繰り返しながら取り扱った内容もあり、指導案作成などの演習に費やす時間が十分とはいえなかった。教職課程の授業としてより実践的な成果を求めるためには、シラバスの構成とともに、一単位時間の授業展開に関しても工夫改善の余地があると考えている。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	新谷 恭明

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
教育方法論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①前年度にもっと実際の授業について考えさせる内容にブラッシュアップしたかったので、授業案の考案や模擬授業の実施などに時間をかけるようシラバスを変更した。</p> <p>②その分理論的な部分を精選した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成されなかった	やや達成されなかった	やや達成されなかった	どちらともいえない	どちらともいえない	やや達成されなかった
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>①成績の平均は81.92であり、全体の平均84.55より数ポイント低い。4学科で最も低い。</p> <p>②到達度自己評価は各項目において平均が3.2～3.4であり、大半が「まあまあ」としており。「かなり」はなかった。。中央値もすべて3.0であった。不満を持っている学生はいないものの3.0は不満予備軍なので達成感を得られる内容にしていきたい。</p> <p>③成績と到達度自己評価は関係があると思う。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①教職課程なので問題はない</p>
--	----------------------

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価は各項目の平均が2.9～3.4であり、中央値も3.0であった。学生は講義の質に満足していないと判断する。おそらく授業研究の内容にまだ課題があるのではないだろうか。ただ、一度やらせるだけではイベントになってしまうので、注意事項を一言入れれば学生を褒める時間がないし、褒めるのも難しい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>①授業研究は回ごとにステップアップできるように講義の設計を改善したい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	手嶋 英津子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
学校栄養指導論 I	3	前期	選択	いいえ	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭の使命と役割を理解し、児童生徒の食に関する実態を把握した上で、食に関する課題を解決するための意識・態度・姿勢を持つことを目的としている。さらに栄養教諭として学校教育に対する認識を深め、どのような食の指導を行う必要があるかを身に付けることに重点をおいている。本科目の受講生は、栄養教諭を目指す学生であり、「資格取得に必要である」ことが受講理由である。本科目を受講するにあたり、栄養教諭に必要な資質として主体的に取り組む力が必要であるため、授業以外でも自ら学ぶ姿勢を身に付けるよう促していく必要がある。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の受講生は12名であり、授業アンケート等で客観的に評価することは困難であるかもしれないが、到達度自己評価では、すべての項目で全員が、そうだと思うと答えており、目標は達成したと考えられる。</p> <p>学習量の評価では、課題以外に学習に取り組んだ学生が1名であった。本科目を履修している学生は、将来、教員を目指す学生として主体的に学習に取り組む姿勢を身につける必要がある。そのため、主体的に学習を行うように促していくことが今後の課題である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は、教職に関する科目の中に位置づけられており、栄養教諭の使命と役割、職務について理解し、栄養教諭としての意識・態度・姿勢を持つために重要な科目である。到達度自己評価において、「職業選択の参考になった」の項目では平均点が3.9点であり、栄養教諭の職務等が理解できたのではないかと考えられる。その他の項目に関しても、全員がそうだと思うと回答しており、内容的妥当性はありと評価できる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は12名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいので、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>本科目は、栄養教諭免許を取得するために必要な科目であり、栄養教諭の入り口にあたる科目である。受講生は12名であり、授業評価からの客観的な判断はできないかもしれないが、最終成績や提出課題より栄養教諭として必要な基礎的知識の形成は概ね達成できたと考えられる。しかし、栄養教諭としての態度や資質を身に付けるためには、主体的な学習を行うように促す必要があり、次年度からは課題の提示等、工夫・改善を行いたい。また、科目の特性上受講者数が少なく、授業評価アンケートでは客観的な意見を捉えにくいので、適宜学生の意見を聞きながら改善に努めていきたいと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	杉谷 修一

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
道徳教育の理論と実践	2	前期	選択	はい	9

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目であるため、学生の意識の上では準備がある程度なされていると考える。ただし、小中時代の道徳教育の実施状況から考えて、非常に意識しにくい科目であると予想される。そのため本授業では授業実践としての道徳教育を具体的な形で意識できることをひとつの焦点とした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	どちらともいえない		どちらともいえない	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養学科平均点71.3点(昨年度75.4点)。全学科平均点72.4点。秀3人、優1人、良1人、可1人、不可2人(昨年度0人)。昨年度に比べると秀の割合が倍増している一方、平均点がやや低下し、不可が2名いた。これは一昨年同様の二極化傾向にあるといえるだろう。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>教職課程の必修科目ということ、また従来型の理論偏重の道徳教育ではない実践的アプローチを採用しているということを鑑み、内容的な妥当性はあると考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>栄養学科は優秀層が厚かった一方、不合格者が目立つ結果となった。不合格者については他学科同様、最低基準クリアの具体的な方法をプリントで配布し、具体的なポイントについては複数回にわたり注意を行っている。そのため不合格の原因としては受講態度等に起因する理解度にあるのではないかと考える。成績上位層については教材分析や授業過程の展開についてよく吟味されており、オリジナリティのある内容となっていた。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本年度は最低基準である学習指導案の形式や内容を守ることができない者が複数いた。全員がクリアできることが次年度の第一の課題である。その上で、自分が実際に授業を行う姿をイメージできるような指導案づくりができる工夫を行い、成績上位層がより質の高いアウトプットができるよう指導したい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	渡邊 義隆

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
生徒指導論	3	前期	選択	はい	12

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	○	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①学生の授業評価アンケートによると、受講動機として「資格に必要」100%となっており、教員免許や資格取得に向けた意識が高いことが推察される。</p> <p>②授業にあたっては、基本的な教育法規、特に生徒指導に関するを中心に学習させた。最も重視したことは学生が教師として教壇に立った時にすぐに必要となる対応・指導・その後の見守りを実際の事例を中心に授業を展開した。</p> <p>③今年度は生徒が授業に参加するための課題等を与えることなく生徒の自主性に任した対応であったため学習量がほとんどない状況であった。次年度の反省として次の授業に向けての準備、授業後の振り返り等を充実させたい。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①(目標を達成した)の項目では、同科の受講生11名中「わりに」「まあまあ」すべてが肯定的回答であった。このことから目標に達したと言える。</p> <p>②学生の(知識)(理解)に関する達成自己評価を見ると、それぞれ肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、4名、6名」「1名、4名、6名」で100%であり、否定的回答は0名であった。このことから目標に達したと言える。</p> <p>③学生の思考判断に関する(検討する力)(判断する力)それぞれ肯定的回答は、「わりに」「まあまあ」の順で「6名、5名、」「6名、5名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことから同様に目標に達したと言える。</p> <p>④同じく意欲関心に関する(意欲)では肯定的回答は、「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「1名、5名、5名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が意欲をもって授業に参加したと言える。</p> <p>⑤さらに技能表現に関する(技術)と(コミュニケーション、表現力)の習得では、肯定的回答は、それぞれ「かなり」「わりに」「まあまあ」の順で「0名、3名、8名」「1名、4名、6名」で100%であり否定的回答は0名であった。このことからすべての学生が技能表現を習得できたと言える。</p> <p>⑥(職業倫理)や(職業選択)での肯定的回答は、それぞれ「1名、5名、5名」「1名、5名、5名」で100%であり否定的回答は0名であった。授業の中で非常に大切な項目であり力を入れた分野であり満足なげかつとなった。</p> <p>すべてにおいて否定的回答は0名であったことは学校現場の具体的事例を中心に教師が様々な状況に対してどのように対応するか、学習できたと言える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CPカリキュラムマップ上における本科目の位置づけから見ての内容の妥当性としては、受講動機でも上がっているように「資格に必要」100%となっており、教員免許の取得に向けた受講であり学生の志向に応えるために、まさに現場の生の状況に触れることにより対応や指導を学ぶことができた授業であり妥当性があるものと思われる。</p> <p>「学習到達度の自己評価」ではすべての項目で肯定的回答が100%であり授業の到達度の目標が達成できたと言える。</p> <p>自由記述では学生が教員を目指すに当たり良い職業選択ができるよう授業を進めてきたことから、少数ではあるが、担当教員への感謝の記述などをいただき教員を目指して努力する姿に応援できるよう来年度に向けての励みになった。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①学生の担当教員への意見は「実体験話などがあり、すぐわかりやすくおもしろかったというものであった。 ②授業の質評価についてはすべての項目で肯定的な回答となった。 ③学習量の評価については今年度予習や課題を与えることなく自主性に任せた。結果としては十分なものとは言えず来年度に向けての反省となった。 ④情報機器や図書館の活用もなかった点についてもはんせいするものであった。来年度は学生が主体的に活動するような授業も考えていきたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>総合評価として、概ね良好であった。しかし課題も多くあった。特に栄養教諭については、学級担任を持つことがなく、講義の中身が少しかけ離れた内容に感じるものがあつたのではないかと推察される。しかし、現在の学校は「チーム学校」と呼ばれるように様々な専門家がチームとして子どもに関わらなくてはならない。全ての職員が子どもを育てる教師という職業は非常に大変である職業であるが、子ども達の成長する姿、人生の一部分であるが関わることのできる素晴らしい職業であることを、学生に伝えることができたのではないかと総合評価を感じる事ができた。 来年度は学生が主体的に授業に参加できるよう考えてまいりたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教学(旧約聖書)	1	前期	必修	いいえ	79

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 学生の授業評価アンケート(学科全体66名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが68名で97.1%であって、他の動機は「単位数確保」が5.9%、「関心」、さらに「GPAアップ」と「友人が履修」とが1.5%であった。キリスト教に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1に建学の精神である「感恩奉仕」との関係と目的を最初に明示する。具体的には、総合人間科学の科目として、専門分野の科学の基盤となる重要な「自己理解」と「人間性」に関わる科学であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、&lt;評価基準は明らかであった&gt;の項目で肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順に「15, 24, 34」で100%であり、否定的回答は0であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「10, 22, 36」で93.15%であり、授業毎に、受講者が「自分の考え、感想、調べたいこと等」を記入した「自己学習記録」を提出し、次の授業で教員からコメント等を記されて返却され、全体に関わる事柄については授業中に教員から詳しい説明を受けるフィードバックが与えられ、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、専門分野の科目とは異なるが、聖書の古代の状況を現代の状況に翻訳するに当たり、理解力を助けるための具体的なメタファーや可能な場合には栄養学科と関係のある例を用い、キリスト教学の知識や理解を専門職との関係で蓄積できるように工夫した。④ 期末試験では、その準備の過程で、受講者が重要なテーマに関して自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 成績を見ると、平均値は72.85点であり、再試対象は6名であった。分布的には、90点以上が5%、89～80点が25%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は30%であり、79～70点が32.5%、69～60点が28.75%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは61.25%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」の順(以下同)に「13, 25, 34」と「10, 27, 33」で、それぞれ98.63%と95.89%で、否定的回答はいずれも1人で1.37%であった。&lt;理解&gt;には無回答が2人、2.74%であった。③ 専門分野での&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;に関しては、肯定的回答は「7, 22, 40」と「7, 21, 41」でいずれも94.52%であったのに対し、否定的回答は同様双方とも「2, 2」で5.48%であった。&lt;意欲&gt;に関し肯定的回答は「7, 19, 43」で94.52%であり、否定的回答は「3, 1」で5.48%であった。④ さらに専門分野の&lt;技術&gt;と&lt;コミュニケーション、表現力&gt;の習得に関しては、肯定的回答は「7, 21, 41」と「8, 19, 42」でいずれも94.52%であったのに対し、否定的回答は「3, 1」と「3, 0」で5.48%と4.11%であった。前者には、無回答が1人、1.37%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「8, 20, 42」で95.89%であったのに対して否定的回答は「3, 0」で4.11%であった。⑥ &lt;職業選択の参考&gt;では、肯定的回答は「7, 16, 43」で90.41%であったのに対し、否定的回答は「6, 1」で9.59%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;では1.37%であった。また、専門分野の学習においても学生の達成自己評価の否定的回答の数値は同様に低かった。すなわち、&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;&lt;意欲&gt;とは共に5.48%であった。また、&lt;技術&gt;&lt;コミュニケーション、表現力&gt;習得でもそれぞれ5.48%と4.11%と1桁であった。&lt;倫理・規範&gt;に関しては4.11%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、豊かな人間性と社会性を支える広い教養を身につけるための&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;に関する否定的回答は1%台であり、責任を自覚し倫理に基づく行動ができるようになるための&lt;倫理・規範&gt;の分野では否定的回答が4%台であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;、及び社会のニーズの変化に対応し自ら学び続ける&lt;意欲&gt;でも、否定的回答は5%台と低く、また、&lt;技術&gt;の習得という専門分野と、適切な関係を形成する&lt;コミュニケーション、表現力&gt;に関しても否定的回答もそれぞれ4%乃至5%台に留まった。③ 以上から、CPの位置づけから肯定的回答は、技能表現の分野でも90%台であり、非専門と非技能表現の分野でも同様であったことから、授業内容は妥当であると考えられる。また、DPの位置づけからも、肯定的回答は、専門と技能表現の分野とにおいて同様なことが見られ、非専門と非技能表現の分野としての授業内容は妥当であると考えられる。すなわち、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけについて、授業内容は妥当であったと考えられる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生からの担当教員へ要望としては、授業の終わり頃になると「早口」となり聞きづらく、「板書の字」が読みづらくなることの2点が挙げられている。この点は授業時間の配分の工夫により改善したい。② 学習量の評価を見ると、&lt;1回30分以上の予・復習&gt;6回を予習が6.85%、復習が8.22%実施しいずれも10%に満たない。1回以上で6回未満の学生はいずれも38.36%で、予・復習のどちらか30分1回以上の学生は45.89%であった。③ 授業の質評価を見ると、&lt;学習の範囲や課題は明らかであった&gt;という項目で、肯定的回答は「かなり」「わりに」「まあまあ」(以下同じ)の順に「15, 24, 34」で100%であった。&lt;理解しやすい&gt;という項目では、「13, 25, 34」で98.63%であった。否定的回答の「少しそうでない」「全くそうでない」が「1, 0」で1%台であった。&lt;学生の質問への答を得る機会&gt;では肯定的回答は「12, 17, 38」で91.78%である。否定的回答は「5, 0」で6.85%で1桁あった。無回答が1名あり、1.37%であった。&lt;参加の機会&gt;では肯定的回答が「10, 22, 36」と93.15%で、否定的回答が「5, 0」で6.85%とやはり1桁だった。④ 学生の授業評価によると、知識・理解を得られ、質問と答えの機会も参加の機会も等しくある。以上から、今後理解等のためには、1)レジメ等による説明の工夫、2)予復習の方法の明確な指示、3)毎回、授業で配布し回収する学生の「自己学習記録」(A4)から判断して、分かりにくい箇所は意見などを含理解の共有化を図る工夫を続ける外に、学科の1年生全員の授業で学生の参加の機会を維持し増やす工夫する。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>授業準備として、今後も、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と社会人としての人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。とはいえ、この科目は実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野であり、その専門分野での「的確に判断する力」及び「その学びを深めたいと意欲をもつ」ことの基盤となるものである。この科目の知識理解を増すことは、専門分野での判断力及び意欲の基盤を広く強くするものである。そこで、参加意識を高めるうえでも、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。③ 以上から、授業準備として、学習動機向上に建学の精神「感恩奉仕」との関係と目的、学習方法を繰り返し喚起する。さらに、授業を進めるに当たっては、今後もレジメ等を活用し、学生から回収する「自己学習記録」から学生の授業の理解度をくみ取り指導を工夫する。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	古川 敬康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
キリスト教と西南女学院のあゆみ	1	前期	必修	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>① 学生の授業評価アンケート(学科全体67名)を見ると、受講動機としては「必須科目である」ことが98.5%であって、他の動機は「単位数確保」が9.0%であった。自校学に初めて接する状態であったことから、授業は受講準備性のレベルが低いところから始める必要があった。学習動機向上対策として、第1にキリスト教と「感恩奉仕」を建学の精神とする西南女学院の歩みとの関係を明確にし、自校学の意義を明らかにし、西南女学院の学生としての「自己理解」と「人間性」に関わる科目であることを説明する。第2に、評価基準を明示する。授業の質評価を見ると、&lt;評価基準は明らかであった&gt;の項目で肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順に「17, 30, 16」で87.5%であり、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「8, 1」で12.5%であった。② 「学生の質問を受け付け、それに答える機会」としては、肯定的回答は「3, 20, 35」で80.56%であり、学生の関心ある質問に適切な答を提供できるように、授業毎に、オムニバス方式でテーマに相応しい講師を招き、授業への参加意識を高める工夫の一つとした。③ 総合人間科学の科目であり、自校学であることから、西南女学院の歩みを肌で感じることができるよう、創設者等の先達者の学校墓地(西南の森)を自主的に行くように工夫した。④ レポート課題で評価をすることとし、受講者が自ら関連するテーマを選び自分の知識を正確なものとし、理解をより深めることができるように工夫した。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>① 成績を見ると、平均値は96.41点であり、分布的には、90点以上が89.87%、89～80点が3.80%で、理想的レベル(概ね80点以上)に達した受講者は93.67%であり、79～70点が2.53%、69～60点が0%で、標準レベル(概ね60点以上)のそれは2.53%で、未達者は3人で3.80%であった。成績で見ると、知識理解はほぼ目標に達した。② 学生の達成自己評価を見ると、&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;に関しそれぞれ肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」の順(以下同)に「14, 32, 22」と「12, 31, 27」でそれぞれ94.44%と97.22%で、否定的回答は「少し、全く」が「3, 0」で4.17%と「2, 0」で2.78%で、無回答が前者に1人、1.39%であった。③ 専門分野での&lt;検討する力&gt;&lt;判断する力&gt;に関しては、肯定的回答は「4, 24, 36」と「3, 22, 37」で88.89%と86.11%であったのに対し、否定的回答は「7, 0」と「8, 0」で9.72%と11.11%で、無回答が前者に1人、1.39%であった。&lt;意欲&gt;に関し肯定的回答は「5, 21, 37」で87.50%であり、否定的回答は「9, 0」で12.50%であった。④ さらに専門分野の&lt;技術&gt;と&lt;コミュニケーション、表現力&gt;の習得に関しては、肯定的回答は「4, 19, 37」と「5, 20, 35」でいずれも83.33%であったのに対し、否定的回答はいずれも「12, 0」で16.67%であった。⑤ 学生の規範学習に関する達成度の自己評価を見ると、肯定的回答が「6, 27, 30」で87.50%であったのに対し否定的回答は「9, 0」で12.50%であった。⑥ &lt;職業選択の参考&gt;では、肯定的回答は「4, 21, 30」で76.39%であったのに対し、否定的回答は「13, 4」で23.61%であった。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CPの位置づけから検討すると、総合人間科学の一科目として、専門分野の諸領域の根本となる総合的視点と人間性とコミュニケーション能力を養い広い視野に立つアプローチを可能にすることに意義がある。上記の通り、学生の達成自己評価の否定的回答を見ると、まず、&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;ではそれぞれ4.17%と2.78%であった。しかし、専門分野の学習においては学生の達成自己評価の否定的回答の数値は、&lt;検討する力&gt;以外は2桁になった。すなわち、&lt;検討する力&gt;は9.72%で&lt;判断する力&gt;では11.11%であり、&lt;意欲&gt;では12.50%であった。さらに、&lt;技術&gt;&lt;コミュニケーション、表現力&gt;習得はいずれも16.67%であった。&lt;倫理・規範&gt;に関しては12.50%であった。② DPの位置づけを検討すると、上記の通り、学生の達成自己評価では、社会の一員としての豊かな人間性と社会性を支える広い総合的視点たる教養を身につけるための&lt;知識&gt;&lt;理解&gt;は否定的回答は4.17%と2.78%であり、自己研鑽し社会貢献への姿勢である&lt;倫理・規範&gt;の分野では否定的回答が12%台であった。さらに、専門分野の課題解決のための論理的思考・判断にかかる&lt;検討する力&gt;は9%台であったが、しかし、&lt;判断する力&gt;は11%台、また、専門分野の地域社会の課題や協働の協力の&lt;意欲&gt;の否定的回答は12%台で、&lt;技術&gt;の習得という専門分野と、適切な関係を形成する&lt;コミュニケーション、表現力&gt;に関する否定的回答がいずれも16%台であった。③以上から、CPとDPの位置づけから見ると、肯定的回答は、専門分野を含め80%台以上であり、すべてにおいて否定的回答は20%未満であり、CP及びDPカリキュラムマップ上の本科目の位置づけに関して、授業内容は妥当であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>① 学生からの担当教員へ要望としては、レポートの課題が多いので減らしてほしいという声があった。また、レポートの字数も最初から明確にして欲しいという声もあった。検討し、適切に対応したい。② 学習量の評価を見ると、&lt;1回30分以上の予・復習&gt;6回を予習が33.33%、復習が59.72%実施し、1回以上で6回未満の学生もそれぞれ38.89%と31.94%で、予・復習のどちらか30分以上の学生は82.64%であった。③ 授業の質評価を見ると、&lt;学習の範囲や課題は明らかであった&gt;という項目で、肯定的回答は「かなり、わりに、まあまあ」(以下同じ)の順に「15, 32, 19」で91.67%で、否定的回答は「少しそうでない、全くそうでない」の順に「6, 0」で8.33%であった。&lt;理解しやすい&gt;という項目では、「7, 32, 28」で93.06%であった。否定的回答は「5, 0」で6.94%であった。&lt;学生の質問への答を得る機会&gt;では肯定的回答は「3, 20, 35」で80.56%あり、否定的回答は「12, 2」で19.44%であった。&lt;参加の機会&gt;では肯定的回答が「2, 13, 30」で62.50%で、否定的回答が「20, 6」で36.11%であった。④ 今後のことであるが、学生の授業評価によると、肯定的回答が知識・理解につき90%以上、質問と答えの機会につき80%以上であったが、しかし、参加の機会が60%台に留まった。これを参考に、1) 今後も理解向上のために、レジュメ等による説明の工夫、2) 理解の共有化を図る工夫、3) 2学科の1年生全員の授業でどのように学生の参加の機会を作れるかを模索し工夫する。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>① 授業準備として、今後も、学習動機向上のために、栄養学科もグローバル化の時代をむかえることを念頭に、西南学院大学の学生であること、その同窓生になることの意義を、それぞれの専門職との関りをもたせながら建学の精神「感恩奉仕」を要とする授業となるように工夫する。今後も、評価基準を明確にし、予習・復習の具体的方法を繰り返し喚起することが必要である。② 総合人間科学の科目として、専門分野の諸領域を超え、その根本となる総合的視点と人間性を養う広い視野に立つアプローチを可能にする利点は、専門分野とは異なる学問する喜びをもたらし得る。特に、この科目はキリスト教の価値観に基づく西南学院大学の学生という集団的アイデンティティを形成する実学であって、この科目で習得する知識理解を応用乃至適用する学問が、まさに学生が学ぼうとしている専門分野である。その専門分野での&lt;的確に判断する力&gt;及び&lt;その学びを深めたいと意欲をもつ&gt;ことの基盤となるものであるという重要な意義を踏まえ、すでに記載した改善策に取り組む工夫をする。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
初年次セミナー I	1	前期	必修	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>大学は、学生自らが目的をもって主体的に学ぶ場であり、基礎的な知識の上に、着想力、論理性、表現力、独創性などの力が求められる。これらの力を獲得するためには、ただ単に基礎的な知識を効率よく覚えるということではなく、自らが積極的に課題を探索していく姿勢をもたなければならない。</p> <p>本セミナーは、初年次セミナー1および2で構成されており、スタディ・スキルズを身につけ、大学での学びの質を高めることを目的とした。初年次セミナー1では、個人あるいはグループでの学習活動を軸に、大学で学ぶためのスタディ・スキルズの基本である「聞く」「調べる」「読む」「書く」「考える」の強化を図った。具体的には、講義の聴き方、ノートの取り方、本の読み方、レポートの書き方、より深い学びを得るための文献検索、インターネット等のICT活用など、大学で主体的に学ぶ技法の習得を目指した。また、情報倫理に基づくメディア・リテラシーの習熟を図った。</p> <p>受講動機は、必修であるが故に特性は見出せない。また、学生の入学時の学修の準備性は期待できない。この科目は学習の準備方法を教え、準備性を高め、学習効率を高めるセミナーである。本講の受講後に格段の学修準備性が高まると考える。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された		達成された	達成された	
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目の本試験成績の平均値は88(±7.0)点であり、標準的レベル(70点以上)に達した。本試験の難易度が低かったのではなく、全学生の修得意欲に個人差が無かったと考える。</p> <p>これ以上は意味を持たないが、理想的レベル(80点以上)は73名(91%程度)、標準的レベル(70点以上)は79名(98%程度)であり、約98%の学生が標準的レベル以上を達成できたと言える。</p> <p>「自己達成度」は平均値が全項目で3.8～4.5の間(中央値4～5)にあり、「授業の質の評価」も4～5であった。</p> <p>ただ、予習、復習の課題がないため授業以外の取り組みは56%(45名)が何もしていなかった。シラバスの情報を参考にしたもの58%(47名)、図書館を利用したものの62%(50名)と、利用者は過半数を超えていた。</p> <p>本科目の内容は、大学の講義を受講する上で、更には管理栄養士国家試験のための学習を成就する上で極めて重要である。さらには、自発的学習へ繋がり、定着することが重要である。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は学習の動機づけが十分達成できており、学生も一定レベル以上の良い成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>② DP, 行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から「知識理解」「思考判断」「意欲関心」ともに達成度は高かった。授業中のフィードバックも十分なされ、授業内容は妥当であったと考える。</p> <p>3まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないとする。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生による授業の質評価については、平均値が3.8～4.5であったことから、授業の進め方は良好と考える。 しかし、学習量の評価についてみると、1回30分程度以上の予習、復習をまったく行っていなかった学生がそれぞれ7.5%(6名)、8%(7名)いた。また授業課題以外の学習に取り組んでいなかった学生も69%(55名)と非常に多かった。また、授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由として、「何をしていたかわからなかった」、「特にすること・課題がなかった」、「他で忙しかった」が多かった。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>大学での学びの質を本講で高めることが出来たという実感が、学生に評価されている。しかし定着し、実践できるようになり、研究や実習、ゼミ、更には修飾語も活かせるよう体得出来ることが目標となるので、更なる充実した内容に進化したい。 本講の他の側面として、演習的なグループ作業や、アドバイザーとの協力的作業等を通して、「学生間の仲間づくり」、「学生間の信頼関係」、「個性と役割分担」、「教員との一体感」、「教員のふれあい」等等、様々な教育に貢献できる効果が得られ、これまでの講義ではえられない「学生と学科教育」に重要な時間であったと考える。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
運動と健康	1	前期	必修	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>健康、運動、栄養、生活習慣、人体生理学、運動生理学、運動関連代謝系の内容の把握させることに重点を置いた。</p> <p>本講は必修科目であるため、98.7%は必修のためと答えた。第2位は「単位数の確保」と答えた者が19.7(昨年59.7%)、「関心があって受講した」と答えた者が13.2%(昨年25.8%)で、その他は「資格に必要」と答えた学生が7.9(昨年14.5%)であった。必修でない一昨年と比較すると、関心の程度はアンケートに現れていないのは残念だ。</p> <p>健康に情報は近年メディアを通して日常的にかつ断片的に触れている。トピックス、ダイエット、体作りを取り上げながら、自己を含め人の健康管理をする上で必要な知識を理解できるように授業計画を構成した。</p> <p>授業計画では予習復習範囲を明示し、教科書の内容を繰り返し読み込ませよう促した。出欠アンケートで質問を受け、学生の理解度を高め、授業で内容を理解しようという姿勢が見えるようになり、理解度は高かったと考える。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は84点であり、再試対象は1名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは68名であった。</p> <p>目標達成できたと答えた総数は74人(78人中)で高値を示した。</p> <p>「知識が獲得できたと思う」は77人、「事象理解の視点を得た」と思う者は72名、「課題検討力」を得た者74名、「判断力を得た」75名、「学習意欲が得られた」76名、「必要技能を得れた」73名、「表現力を向上できた」60名、「倫理規範獲得」73名、「職業選択の参考」70名と高い自己評価を持た。</p> <p>欠席する者少なく全員が積極的に受講していたと考える。今後、より真の関心を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。</p> <p>事由意見では、概ね分かりやすい授業だったという意見が多く授業進行は良かったと思われる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は「総合人間科学科目」であるが、自己の健康管理及び学生生活においても必須の基本的知識である。また、生活信念、健康志向、美容的自己管理においても大きく関わりのある科目内容である。学生が一定の成績を収めていたことから、内容的には文系の学生にも妥当な内容であったと考える。</p> <p>②DP, 行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から、方法的妥当性は十分あったと思われる。</p> <p>③受講動機で内容に関心がある学生よりも、単位獲得目的の学生の方が多く、「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は100%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、予習を全くしなかった者が18名(78名中)と予想より多かった。 シラバスを参考にしなかった者が21名(78名中)、授業計画を立てなかった者53名であったが、図書館、データベース、インターネットの利用者は63名と大多数であった。 次年度に向けて、思考判断の行動目標をより具体的に示した上で、小テストの出題要点を事前に提示し、その内容を検討して授業に参加するよう促したい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>健康管理、健康づくりの基礎的知識の形成は概ね達成できた。授業過程を振り返ってみたとき、じっくり検討を加える時間がなかったため、予習課題の提示などで改善を図りたい。 以上から、毎回のねらいを具体的に示すこと、可能な限り単元毎のまとめの時間をとるか、復習課題を意識的に提示するようにすることをくわえていきたい。 配布物に対する学生の意見を取り入れ、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
チームスポーツ	1	前期	選択	はい	60

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①受講者は、学期の始講と最終講に、体力測定および体組成(体脂肪量等)の測定を行ない、運動量と身体組成や健康度との関係、運動効果の把握が体感できるように務めた。</p> <p>②3回の講義時間を用いて、「筋力トレーニングの方法、トレーニング機器の使い方」、「心拍数を基準とした持久性トレーニングの方法」、「ストレッチ体操の実際、ウォーミングアップとクーリングダウン」について講習を行い、授業外に、また将来にわたり自ら運動処方できるよう誘導した。</p> <p>③各受講者は、学期始めに標的運動量を算定し、毎授業時にカロリーカウンターを装着させ、自己の運動量を把握させ、運動意欲を喚起した。</p> <p>④1および3について毎時間記録と評価を行い、期末でそれらをまとめて実習期間全体の自己評価を行わせ、健康度と運動量、体組成の変容と運動量、身体運動能力の開発の程度と運動量の関係が理解できるように努めた。</p> <p>⑤健康科学実習Ⅰでは、入学直後であることも考慮し、チームのメンバーが固定的にならないように、種目が変わる毎にメンバーの入れ替えを行い、できるだけ多くの人とコミュニケーションをとることができるよう工夫した。チームミーティングを試合前後に行わせ、所属チームの勝利のための戦略立案と実行、チームの中の個人の行動のポジティブなあり方、組織の中の個人の役割を意識した行動の実行を促した。また、試合後には必ず良かった点や悪かった点、次の試合に向けての改善点(課題)などをチームで話し合わせ、記録用紙にまとめさせることによってチームで活動することの意義を考えさせた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された			達成された	
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>最終的な成績の平均値は85点(SD10)であり、再試対象は2名であった。ほぼ平均点は標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものが49名と予想以上に多かった。目標達成できたと答えた総数は52人(53人中)で高値を示した。</p> <p>目標別に見ると、「知識が獲得できたと思う」は96%、「事象理解の視点を得た」と思う者は92%、「課題検討力」を得たと答えた者94%、「判断力を得た」96%、「学習意欲が得られた」96%、「必要技能を得た」92%、「表現力の向上」100%、「倫理規範獲得」98%、「職業選択の参考」92%と高い自己評価を持たすことができた。</p> <p>今後さらに、欠席する者少なく全員が積極的に受講していた。今後、関心の数字を高めるような方法を考えたい。また、教科書以外の資料をインターネットを利用し、配布やアンケートの回収を行い工夫のポイントを拡大したい。目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は100%の者が達成したと自己評価している。</p> <p>意欲関心を高めるために、種目やその歴史背景なども説明して、もっと深みを増していくことも次年度にむけて検討したい。学生による授業評価では、知識理解の観点、思考判断の観点での自己評価にあまり差がないことが示された。これは、学生が思考判断で何が問われているかを自覚していなかった可能性が考えられる。次年度に向けて、ルーブリックで示すだけでなく、各授業のはじめに示す「ねらい」の表現を工夫するようにしたい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「総合人間科目」であるが、必須科目に位置付けられ、初年度教育における友達づくりやストレス解放、健康づくりに最適である。また、運動の原理原則を実体験し確認する場として有用である。学生は積極的であり一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から思考判断に関する達成度が比較的高く、カロリーカウンター装着による目標運動量の達成意欲、試合数と勝利数の記載、体力体型の縦断測定比較考察は方法的に成功しており、妥当性は高い。</p> <p>③受講動機で内容に関心がある学生が44.2%で、単位獲得目的の学生が59.6%である。「受講動機」が曖昧な学生も多かったが、「学習到達度の自己評価」は98%が達成できたと考えており、栄養科の学生に妥当な内容であったと考える。</p> <p>以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。  
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

試合毎に、試合の内容の反省、チーム員の役割の適切さ、勝つための役割などについて短時間で話し合い、チームとして記録用紙にまとめた。その繰り返しは積極的な参加態度、リーダーシップを産み出し、集団の中の自分の役割を意識するよう促した。更に状況によつての言葉かけのタイミングを検討したい。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

授業目標への達成を受講者が評価しているが、さらなる学生の積極的な参加態度を産みだし、健康作りのための授業以外の運動習慣を促し、生涯スポーツを持てるような動機付けができるようにさらに改善したい。

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	八木 康夫

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
保健福祉学入門	1	前期	必修	はい	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本科目は看護学科、福祉学科及び栄養学科における学びをスタートするにあたり、保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義を理解し、社会の期待に応えるための課題への認識を深めていくものである。</p> <p>本科目は栄養学科学生の必修科目であり、受講動機は「必修科目である」98.6%で、「関心がある」1.4%と、全く受け身なものであった。出来るだけ関心を高め泥九事が課題と考える。</p> <p>授業の最後に学習内容の確認アンケートを行った。その項目に△△を新たに加えた。8コマ目に確認テストを行い、学習状況を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された			達成された	
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績の平均値は78.4点であり、再試対象は0名であった。</p> <p>全員が標準的レベルに達したが、理想的レベル(概ね80点以上として試験を作成)に達したものは20名(全79名)と、まだまだ限られていた。</p> <p>目標別に見ると、知識理解に関しては100%、思考判断に関する問題は98%であった。思考判断では、与えられた課題を解決する際に知識をどのように応用するか、また多様な方法がある場合に、それぞれの長所や問題点を整理することを問うものであり、とくに後者の理解力を持つことが本講の重点となる。さまざまな場面をイメージする力をどのように獲得していくかという課題と捉え、次年度にむけて検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性</p> <p>本科目は、全学共通講義と学部共通講義で構成され、各「専門科目」への入り口であり、通るべき必修科目と考える。また、様々な課題に応えるように工夫し、学生も一定の成績を取めていることから、内容的には妥当であると考えます。</p> <p>DP, 行動目標からみでの内容的妥当性</p> <p>成績評価から思考判断に関する達成度が比較的低かったが、思考判断として何を問うているかが学生に伝わらなかった可能性を示している点では方法的妥当性の問題が考えられる。ただ、成績は上昇したことから、内容的には妥当であったと考える。</p> <p>まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価は3.1~3.7と幅が広く、特に説明については理解しやすいと評価されていた。 学習の量は僅かで、受け身の姿勢が伺える。資料、インターネット、経験者談からの学習がおもであった。 課題、試験の情報提示等工夫する余地がある。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>学生が建学の精神に触れると同時に、専門科目ではきくことのできない幅広い内容について学ぶことで、専攻する学問分野の違いを超えて学習する上での根幹となる総合的視点を身に付け、さらに保健・医療・福祉の専門性と多職種連携の意義の理解と、社会の期待に応えるための課題への認識を深めるといった目的の理解は達成されたと考える。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	森田 洋

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生物と生命科学	1	前期	選択	いいえ	70

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義を受講する学生の高校時代の生物選択は「生物基礎のみの履修」、「生物を履修」、「生物をほとんど習っていない学生」と様々であり、これらの履修状況の異なる学生に対して、高校生物の内容をカバーしながら、栄養学科に必要な生物学、生化学等の導入教育的な要素も取り入れながら、わかりやすい授業を心がけながら授業準備を行った。また毎回、コメントカードに講義の感想や質問があれば質問内容を記入させ、次回の講義で質問内容に答えるなどして、学生の理解度と学習意欲を増すための工夫を行った。更に試験直前には演習問題を実施し、学習状況の確認を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>70名の受講生のうち、90点以上が48名、80点以上が17名と受講者の92.9%が「秀」あるいは「優」の成績で会った。これは昨年度の85.3%を上回る結果である。また授業アンケートでも「わかりやすく、面白い授業だった」などの好意的な意見が多く、学生の到達度自己評価においても、多くが受講生が専門分野において一定の知識を深めることができたと回答しており、教育目標としては大いに達成できたものと考えられる。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>本講義は高校で未履修部分の生物学の内容を網羅し、なおかつ栄養学科の専門科目への橋渡しを行う基礎科目としての位置づけとなる。受講動機は単位数を確保するというものや関心のある内容であるというものが多く、到達度自己評価は自分なりの目標を少しでも達成したと答えた受講者がほとんどであったことから、本科目の内容的妥当性には問題ないものと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質の評価については概ね良好な結果であったが、今年度においても学習量の評価で事前学習、事後学習をしている学生が少なかった。「選択科目」という位置づけからどうしても必須科目に比べると事前学習、事後学習などが後回しになってしまうものと理解はしているが、次年度も引き続きこの点について対応していきたいと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>事前学習・事後学習に関しては課題があるものの、教育目標、最終成績評価、学生による自己評価のいずれも基礎科目としての役割を十分に達成していると思われる。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	齋藤 朗宏

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
数学リテラシー	1	前期	選択	はい	52

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>事前準備としての事前クイズを実施し、予習の時間を確保すると同時に事後学習として、授業の最後にグループワークを実施した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>*根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>試験ならびに総合的な成績評価としては良好であったが、グループワークのレポートについて、理解が不十分と思われるものがそれなりにあった。試験のように何かをやれと言われればそれは難しいのだろうが、どんな数式を使うか自分で考えるという部分で不十分さが残った。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>1年生科目であり、単位数確保を目的とした履修者も多く、履修者側に位置づけが十分に伝わっていなかった可能性がある。そのため、内容の良しあしとは別に、授業の目的がうまく伝わっていなかった可能性があり改善を考えたい。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>グループワークについて、評価の公平性に対する疑問が一定数あったため、改善を考えたい(他の学生に任せきりで何もしない学生がそれなりにいたようだ)。また、事前クイズについては、採点の対象外としていたが、事前クイズへの回答も成績評価に加えることで、予習の学習量を増やしたい。</p>
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>開講初年度ということで、学生も私も手探りの部分があったが、数学という科目の特性もあり、簡単に感じる目標レベルまで楽に到達できる人と、難しく感じそうでない人との差が大きかったように思える。この部分の調整は難しいが、レベルの高い学生への追加課題などで対応することを考えたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
生活の中の化学	1	前期	選択	いいえ	73

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は選択科目である。今回の受講動機は、「単位数を確保する」64.2%、次いで「関心のある内容である」19.4%であった。本年度の学生の受講態度は良好で、「化学」をいう科目に取り組む姿勢、意欲をある程度感じた。講義では、化学の基礎的知識と化学反応に関する基本的な理論・法則を重点的に扱っている。特に生化学を学んでいく上で(私の講義を理解していく上で)必要な項目に焦点を当てて行っている。学生には、化学的な用語や化合物の定義、代表的な有機官能基の代表的な反応、触媒の定義と働き、酸化還元について、最低限の定義、理論および法則を身につけることが、特に今後生化学を学んでいく上で重要であることを強調し、指導している。</p> <p>②講義は、スライド中心に勤めている。レジュメは、用いたスライドから特に重要と考えられるものだけを抜粋して配布した。すべてを配ると講義をおろそかにする学生が逆に増えると考えていることが理由である。しかし、講義中は、スライドの丸写しにだけ集中している学生が少なからず見られるのも事実であり、この点が今後の課題である。</p> <p>③講義に用いるスライドは、前年のものに改訂を加えて用いた。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	<p>最終成績の平均は74点、不合格者は13名であった。優(80点以上)以上の成績を修めた学生は34名、うち90点以上が19名、内満点が3名であった。本年度の平均点は例年並みであったが、90点以上の成績を修めた学生は、多かった。一方、50点未満での不合格者が8名もいた。成績が高得点と低得点の両極端に分布している傾向にあった。これは、最近の傾向である。授業の予習が0または1回の学生が53名、また、授業の復習が0または1回の学生が46名であった。講義中に時折、学生に質問をした際、自分の考えを述べる姿勢を見せる意欲的な学生が、昨年よりも少なかった。試験問題は、基礎的知識(化合物や代謝経路の定義等)と問う問題、基礎的な思考力を要する問題を併せて9割以上、やや高度な思考力を要する問題を若干の割合で出題した。本年度の成績は、昨年よりやや高かったが、おとなしい学生が多いのか、受講態度はよいものの、意欲や積極性については、はっきりしなかった。多くの学生が、講義に意欲的に取り組むことで、今後更に成長することを期待する。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は、総合人間科目、学部共通科目、選択科目である。内容的には妥当と考える。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解を問う科目である。目標達成度は充分であり、内容的には妥当と考える。</p> <p>全体としては、妥当な内容であったと考える。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>今年度は、数値上、良好な目標達成度が得られたと考えている。学生の受講態度は良好であったが、さらに意欲と積極性を発揮すること期待する。 本科目の講義内容は、講義のタイトルである「生活の中の化学」に鑑みると、生活や身の回りの事例等に則するという面が本年度もまだまだ不足していたと考えて いる。次年度以降は、タイトルに則した事例をもっと取り入れた内容にすることで、多くの学生にもっと親しみの持てる内容の講義にしていくつもりである。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本年度は、合格率、平均点とも概ね良好であった。本年度は、達成度について特記することはない。本年度の学生の受講態度は、高評価に値するものであった。 このことが生化学Ⅰへとつながっていくことを期待する。次年度からも講義の内容に改良を加え、学生の意欲を高いレベルに維持していくことが課題と考える。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	木村 茂喜

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
法学	1	前期	選択	はい	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機を見ると、「単位数を確保する」57.1%、「関心のある内容である」42.9%、「資格取得に必要である」、「友人が履修している」がともに28.6%であった。保健福祉学部3学科同時開講の科目のため、栄養に特化した授業内容にするのは困難であるが、学生が具体的なイメージを持ちやすい事例を挙げて、関心を引き付けるように努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>前期試験の平均点は72.43点、再試対象者は0名、理想的レベル（80点以上）に達した者は1名であった。前期試験の出題形式は、昨年度より、従来の知識理解を文章で論述する形式に加えて、重要な語句を解答する（いわゆる穴埋め）形式および具体的な事例に合わせて法的な知識理解に加えて、支援する態度も併せて問う形式で出題した。学生による到達度自己評価については、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均値が3.9であった。他の項目については、いずれも3.6-3.7の範囲内にある。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CPカリキュラムマップ上の位置づけからみると、本学は「総合人間科学」科目であり、国家試験の試験科目ではないことから、受講者数が時間割に左右される傾向があり、動機付けには苦慮している。しかし、将来社会の中で、対人社会サービスの担い手となる学生にとって、社会人としての基礎的な教養と知識を身につけるためには重要であることから、内容的には妥当であると考え。②DP行動目標から見ると、栄養学科の受講生は7名と少ないが、これだけをもって内容的妥当性を測ることはできない。他の学科の学生については自己評価と成績に相関関係が見られることから、内容的には妥当であると考え。よって、内容的妥当性には問題ないと考え。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価については、「テスト、レポート、提出物などの評価基準は明らかであった」、「説明は理解しやすいものであった」の平均値がともに3.7、「期間内に行うべき学習の範囲や課題は明らかであった」の平均値は3.6であった。今後は教員に負担にならない程度で学生の質問を促す方策をも併せて考えたい。学習量の評価について、講義内で予習・復習のやり方について説明したが、全く予習をしなかった学生は4名、全く復習をしなかった学生は3名で、約半数の学生が予復習を行っていない。学生からの意見は特になかった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>総合人間科学科目とする本科目の位置づけから、豊かな人間性と社会性を支える幅広い教養としての基礎的な知識の形成についてはおおむね達成できたと考える。今後は予習・復習の習慣が学生に定着することを目指したい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	十時 康

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
基礎英語	1	前期	選択	いいえ	69

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択性ということもあって、受講動機にも「関心のある内容である」と答えた学生が一定程度いたため栄養分野の語彙習得と英語の語順理解という2本立てで進めることにした。</p> <p>専門分野との関連付けが難しい点であったので、英語でレシピ動画を見るなどテキスト以外栄養分野の英語に関心が向くように努めた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>栄養分野の語彙習得と英語の語順理解という点にフォーカスしていたので、期末試験での配点もその2つを中心に構成した。</p> <p>試験の結果も上記2点の項目については8割程度の正解率であったので満足している。</p> <p>学生の自己評価も③④の項目がもっとも多いものであったことも併せて上記の通り評価をした。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>受講動機としては単位数確保がもっとも多いものであったが、3割程度は関心があるからと答えた学生もいた。また到達度自己評価でも専門分野との関連項目で③④の肯定的解答が多くを占めていたため、内容妥当性は問題ないと思われる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>学生の自由記述にもあったが、英語力のレベルに開きがあったため一部の学生は退屈であったようだ。プラスアルファの課題の提示や活動レベルの調整によってこうした問題は解決していきたい。</p> <p>今回使用したテキストの本文がかなり語数が多いものであったため、もっと簡単なテキストでかつ栄養分野のものを採用したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>英語レベルに合わせたテキスト選択と専門分野との関連をより強めた授業展開にしたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	陳 青鳳

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
中国語入門	1	前期	選択	いいえ	7

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 中国語入門の概要及び達成すべき目標とは、「正確に現代標準中国語の発音を習得する。基礎的な文法を学び、初級の日常的な会話表現を養成する。中国語の学びを通して、中国の文化や風習などを知る」ということである。学生の「受講動機」においては④「単位数を確保する」の50%を除いて、③「関心のある内容である」は100%であった。このことから、本講義の目標を達成していたと考えることができる。 2. 受講人数がかなり少ない点については、ほかの専門科目と同じ曜日・時限にならないよう、次年度の時間割調整においても少し考慮していく必要があると考える。 3. 「少人数だから、教員とのコミュニケーションが取れる」という学生の意見から、これからの授業でも、できる限り学生一人一人と会話できる場を増やしていくことができるように工夫したい。</p>
---	---

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>1. 最終的な成績の平均値は「86点」であった。標準的レベルを超えて、理想的なレベル(定期試験及び平常点の総合として80点以上)に達していた。 2. (DP-1)の知識理解をみると、将来の保健・福祉を支えるための基本的知識、つまり国際社会で人と自由に会話を交わすことができる能力を初歩的に習得していた。 3. 学生による授業評価においては、授業に参加するために、1回30分程度で週2回の復習を行っていた。また、授業の記録作成にも自分なりのノートを作成したという成果が見られた。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の学習到達度評価をみると、「自分なりの目標を達成した」は平均点3.7点、また、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」は平均点4.7点であった。以上のことから、自信を持ち、新たに知識を得ようとする学生の姿勢は評価すべきものであり、内容的妥当性には問題はないと考えられる。</p>
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>1. 「授業の質の評価」について、値的にはかなり良く、特に問題はないと思われる。 2. 「授業の量」については授業外の学習はほとんどなかったことから、次年度に向けては具体的な課題を提示するよう改善していく。 3. 「図書館やインターネット等の利用」はほとんどないという結果がでていた。授業と関連している知識やデータも重要視すべきであることを学生に喚起し、積極的に利用できるように促していきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>1. 中国語入門は選択科目であり、基礎知識の形成については概ね達成できた。 2. 語学の授業なので「話す・聞く・読む・書く」という4つの基本学習をしっかりと習得できるよう、毎回の授業でこれらの項目に合わせた内容を取り入れていきたい。 3. 授業で学んだ内容によって、国際社会で人と会話を交わせる能力を、身につけられるよう、養成していきたい。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	金 光子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ハングル入門	1	前期	選択	いいえ	31

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	韓国語が初めての受講者が多いことから、ハングル文字でつまづかないように経験上理解しにくいところを先回りして解説するなど、わかりやすい授業を第一に心がけた。
---	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 *根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	毎回行う小テストで、初回あたりは全員の平均点はあまり高くなかったが、徐々にハングル文字のコツをつかみ出して学期後半においては皆が高い平均点を出せるようになった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本講義は語学学習を通じて韓国という国・地域に興味をもち、言葉に現れる文化の違いなどを理解し、また実際に韓国語を話すことによって異文化への理解を深めながら学習が可能になったと思うので、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性は問題ないとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の進度は毎回行う小テストや課題の出来具合をしっかりと把握し、つまづいている受講者がいれば個人的に指導にあたりました。最終テストでは全員の平均点が高く語学の基礎的レベルには十分に達したと思う。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本講義ではハングル文字の書き方、正確な発音など、これからの発展的な語学学習の重要な基礎を身につけることができ、韓国語でのコミュニケーションの第一歩を確実に踏み出せたと思う。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	本間 学

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
メディアリテラシー	1	前期	選択	いいえ	30

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>選択科目であり、さらに学生のスキルの幅も大きいことが予想されたことから初心者を中心として時間を掛けて説明し課題を設定した。今回の受講動機をみると「関心のある内容」が41.4%、「単位数を確保する」が69.0%と、かなり消極的な理由から受講した学生が多いことが示唆するものであった。できるだけ具体的な例を挙げて、関心を持たせることをしてきた。</p> <p>①著作権、SNSの利用、スマートフォン利用に関して動画を利用して理解を深める工夫をした。 ②著作権、SNSの利用、スマートフォン利用およびメール等の文書作成の理解度を測るため小テストを実施した。 ③PowerPointでプレゼンテーションにおいて個人の技術習得を目指し個人毎にプレゼンテーションを作成しグループ毎で全員が発表した。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>学生の成績の平均値は82.6であり標準偏差は8.2であった。成績は課題(50%)、小テスト(20%)、プレゼンテーション(30%)として評価した課題の提出、出席状況、およびプレゼンテーションの発表状況は良く、理想レベル(80点以上)は上まわっているためよしとすべきだろう。</p> <p>学生の到達度自己評価の平均値は3.2～4.0と学科に比し低い、「まあまあ」と「わりに」にのみ集中しているため、善くも悪くもなかったという実感ではないかと考える。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみても内容的妥当性 本科目は「総合人間科学」であり、選択科目である。大学のカリキュラムポリシーにIT活用能力が含まれること、および成績評価から内容的には妥当であると考える。</p> <p>②DP、行動目標からみても内容的妥当性 成績評価から達成度は十分と判断出来ることから、内容的には妥当であるとえられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>①授業の質評価において、「自分なりの目標を達成した」の平均が3.6、「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の平均が4.0と高かった。学生の成績を踏まえて判断すると、授業の目標は達成できたのではないかと考えられる。次年度に向けては、さらに知識を深める努力をするとともに、質問がもっと増え、学生がより積極的に授業に参加できるよう改善していきたい。</p> <p>②学生の意見として、「説明が速くてわかりにくかった」というものがあった。説明について後で参照できるように改善できる様にしたい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>課題の提出率が非常に高かったことから、授業目標達成のためのプロセス遂行は、問題なく行われたと考えられる。ただし、授業過程を振り返ってみたとき、学生同士、学生と教員でのコミュニケーションをとる時間足りなかったことが到達度自己評価、授業の質評価から分かったのでコミュニケーションを取る機会を増やす工夫として学生からの教員への質問カードや学生同士の発表の時間を作るような時間を作るなど、来年度に改善を行いたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	相良 かおる

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
情報処理基礎	1	前期	選択	いいえ	76

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>前年度迄開講の「情報科学演習1」が名称変更となったとのことで前年度と同様の授業内容をおこなった。従って、「情報処理基礎」の名称から連想される内容とは異なり、操作技術を習得する課題ではなく、情報を検索し、思考しまとめる課題を課している。また、サイバー事件に巻き込まれないための知識・技術を見につけることを重視している</p> <p>具体的には、タイピングの練習に日本国憲法の全文を打たせ、読めない用語にルビをふり、意味を調べ、印象に残った条文とその理由、意見・感想を最後に付加しレイアウトを整えて提出させている。ネット犯罪および著作権に関しては、警視庁のサイトで公開の対策ビデオ、および公益社団法人著作権情報センターのDVDを視聴し、Wordでレポートを作成している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された				達成された
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>最終的な成績は、AクラスはA:10.5%、B:63.2%、C:13.2%、D:10.5%、E:2.6%、BクラスはA:15.8%、B:42.1%、C:21.1%、D:7.9%、E:10.5%であった。授業評価の折に行ったら、行動目標について「出来る」「なんとか出来る」「出来ない」の3段階自己評価における「出来ない」の割合は、(1)8%、(2)0%、(3)4%、(4)4%、「出来た」の割合は、(1)21%、(2)69%、(3)21%、(4)は46%であった。</p> <p>(1) 2進数およびデータ量の単位と接頭辞を理解する。 (2) ネットワークエチケットを守ることができる (3) インターネット事件の概要と予防方法を説明できる (4) 情報検索・文献検索ができる</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>DP, CP, カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性については、成績評価および行動目標の自己評価の結果より、「知識・理解(DP1)」「思考・判断(DP2)」「態度(DP4)」共に内容的妥当性に問題はないと考える。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>習熟度別クラスではないため、出身高校のコース(商業科、普通科)により、技術的な格差が広がっているように思うが、相互に教え合える雰囲気を作り、教え合うことを奨励することで、友達作りにも繋がり、授業の進め方に大きな問題はないと考えている。 昨年、授業には出席しながら未完成の課題を提出し単位を落とした学生が出た。今回、授業の初めに未完成の課題を提出して単位を落とさないよう注意をしたところ、未完成の課題を提出した学生はいなかった。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>大きな問題はなかったと考えている。 なお、情報化の進む現在、情報系教員のイメージする大学教育での「情報処理基礎」は、プログラミングである。 実際に担当する教員として内容変更ではなく、名称変更された意図を教えてください。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	今村 浩司

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
ボランティア概論	1	前期	選択	はい	11

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>本講では、ボランティアや地域貢献活動等の理論や実践について学びを深めるとともに、自らボランティアに参加したりすることにより、自分自身の社会的有効性や存在価値を見出し、豊かな人生を目指すことを目的としたものである。全8回の講義中、現在進行形で活動しておられる、外部講師を5団体招聘して、リアル講義の工夫をした。</p> <p>特に自分自身で活動を行いたいと思うような気持ちを膨らませられるよう、質疑応答の時間を多く設けるように工夫した。</p> <p>初回講義の時には、この講義で何をするかということ、ペーパーにして配布し詳細の説明をした。心構えと題してのペーパー（内容は休まない、協力する等の再確認、外部講師の方々へのマナー礼儀の確認）を配布して関心をもたせた。また、毎回、リアクションペーパーの記入で、自分が何をどんな風に学んだかを振り返る時間を必ず設け、考えたことを文章にて表現させた。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1) 教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
<p>(2) 上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>全体を通して目標の達成度が達成されたという根拠は、欠席が非常に少なかったということが考えられる。そのことで、学生の意識をしっかりと受け止めることができたと感じている。また、リアクションペーパーの中には、楽しい授業であった、普通では知ることができないことを学べた、実際にボランティアを始めた、等々の記載内容のものが多かった。当然楽しいだけではいけないので、毎回必ず振り返りを教員と学生と一緒にやって、このボランティア概論の意義と必要性を高めた。そのようなことから、最終的には全員が学びと感動を深めることができ、理想的レベルまで達成できたものとする。</p> <p>講義時間内だけのものになってしまう可能性もあるので、外部講師（ゲストスピーカー）の団体の事前学習の課題を与え、考えさせて興味を持たせるよう工夫して行った。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみての内容的妥当性については、学生の授業評価アンケートの評価や、最終報告から見て、内容としては妥当と考えられる。DP、行動目標から見ての内容的妥当性に関しても同様で、内容的には妥当であったと思われる。以上のことから、内容的妥当性に関しては問題ないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に お示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示し ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、 インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の課題以外に学習に取り組んでいない理由」で、「することがなかった」という回答があった。 地域貢献や社会活動、ボランティア等々の重要性について、より具体的に社会の中での状況を興味深く話していき、可能な限りリアルに伝わるようにして、講義以外の 時間でも振り返ることができるような意識付けを深めていきたい。 事前の課題をほぼ毎回課したので、インターネットの利用が多かった。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本講においては、学生からの自己評価やリアクションペーパー、最終講義の時の全体的感想によって、その達成は理想的レベルであると考えられる。 講義内容もゲストスピーカーの方々のご協力を得て、シラバス通りに進化した。 次年度も同様な内容で進めていこうと考えるが、時代をキャッチした内容の講義を展開していきたい。</p>
-------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	岡部 明仁

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
解剖生理学	1	前期	必修	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①教科書の図を順序通りに説明を行うことにより、学生がメモを取る時間を極力軽減し、説明を聞く時間を多くとり講義時間内に理解してもらるように取り組んだ。説明文は、教科書と同じ文章を用い、教科書に印をつけるだけでキーワードを含んだ文章を探し出せるよう講義スライドに記入した。</p> <p>②講義資料は、講義開始前に紙媒体で配布し、最終的に「講義資料配布システム」に全てアップロードし、いつでもどこでも復習できるようにした。</p> <p>③管理栄養士国家試験において得点率が低い分野であること、また調理や栄養に直接的な関連がわかりづらい分野であり且つ初年次前期での履修となるので、興味を持ってもらえるよう身近な病気・病態や生理現象をできるだけ多く提示した。</p> <p>④試験問題の傾向を学生に知ってもらうため、定期試験前の講義内で小テストを行い復習への意識を高め、学習状況を確認するようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。	<p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>					
	<p>①今年度の結果 本試験の合格者は79名中76名で再試験者は3名で、再試験後1名合格し2名は再履修となった。本試験の平均点は79.1±11.8点であり、理想的なレベル(概ね80点以上)に到達していると考えられる。加えて、90点以上が15名と上位層は昨年比べて厚くなった。次年度も本年度と同様、講義資料を前もって配布し、進みそうな範囲を前もって予習してきてもらうなどを考えている。次年度は、再履修者が出ないよう配慮したいと考えている。</p> <p>②学生による授業評価においては、「到達度自己評価」及び「授業の質」において、「まあまあそうだと思う」以上の肯定的な評価が90%以上である項目が多いが、「コミュニケーションや表現力」、「職業倫理や行動規範」、「学生が参加する機会」などについては、「少しそうでないと思う」以下が10%程度あることから、このような機会を講義の中で作っていくことを次年度の課題とする。</p> <p>③「図書館、インターネットの利用」が非常に少なかったため、課題を与えて図書館等の利用を促したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP, カリキュラムマップ上の位置づけから見ての内容の妥当性 本科目は「専門教育科目、専門基礎分野」であり、必修科目である。管理栄養士国家試験にも一定の割合で出題されており、専門的な医学系科目を学ぶための基礎知識を学習するものである。調理や栄養と直接的な関連性が分かりづらい科目ではあるが、学生も一定の成績を収めていることから、内容は妥当であったと考えられる。</p> <p>②DP, 行動目標から見ての内容の妥当性 成績評価と学習到達度についての学生の自己評価からみて、目標を標準的なレベルでほぼ達成できたこと、加えて定期試験問題は管理栄養士国家試験の問題に準じて作成したので、内容的には妥当であったと考えられる。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性は問題ないと思われる。</p>
---	---

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。</p> <p>また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.3と低かった。身近な生理現象や、病気などを例に挙げて問題提起をするよう心掛けていたが、学生同士で議論しまとめ、発表するという時間をとることができなかった。予習・復習や自発学習を行っていない割合が多いのも反省点である。次年度に向けて、配布資料を前もって配ることにより、予習を促し、途中で小テストを入れるなどして、復習する動機づけを検討したい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお願いします。</p>	<p>専門教育科目専門基礎分野にあたる本科目の位置づけから、知識理解度及び技能表現についてほとんどの学生が積極的に取り組んだものと判断できることから、概ね目標を達成できたと考えます。講義時間中の質疑応答は、比較的自由に行えるようにしていたが、事例について学生同士でじっくり時間を取って検討し、発表する時間がなかった。今後、毎回の講義のねらいを具体的に示し、グループごとに討論する時間を設けたり、その内容を発表してもらうなど、学生がもっと参加する意欲が持てるよう努力していきたい。</p> <p>配布物や講義の進行については、学生の意見を積極的に取り入れ、来年度に向けて改善を行いたい。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
調理学	1	前期	必修	はい	82

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	①授業の始まりに、今日の講義内容についてまず「今日のポイント」を説明し、それから話を始めた。 ②1枚のスライドの文字を大きく見やすくし、説明がわかりやすいようにした(印刷物も同様) ③受講動機は必修科目であり、資格取得に必要な科目であるため、具体例をあげ、関心を持つように心がけた。 ④章ごとに、国試に出た実際の問題を提示し、出題内容や出題傾向を説明し覚えるポイントとした。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	成績の評価点は85.6±12.4点、再試2名であった。80点以上が81%であり、79点以下が18.7%であった。 到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:3.7、4.0、(2)知識の確認修正:3.9、4.0、(3)事象を理解する考え方:3.6、3.0、(4)課題検討力:3.8、4.0、(5)的確な判断:3.8、4.0、(6)学習意欲:3.9、4.0であった。 この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断などが習得できたと考えられる。 授業の質の評価の(3)説明は理解しやすいものであったでは平均点3.9、中央値4.0で平均並みと考えられる。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や知識の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。もっと自発的に行動させるため、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業を組み込んでいきたい。 ③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.3、中央値3.0とやや低い。授業の最後にその回の内容をまとめた問題を解く時間を設けているため、学生に発表させるなどの方法を取り入れ、参加型授業を組み込んでいきたい。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけするため、基礎的知識の形成については概ね達成できた。授業の最後にしっかりと問題を解き、調理理論及び調理科学の理解を促し、学習効果を高めたい。 しかしながら、この科目は1年次に習得するため、国試対策を行う4年次の時点では、学習内容が非常に希薄になっている。そのため、繰り返し学習させることが重要である。</p>
-------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	船越 淳子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
フードスペシャリスト論	1	前期	選択	いいえ	68

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①資格取得を目的とする教科書であるため、テキストに沿った内容を中心に授業計画を立てた。当該科目は、「食」に関わる歴史、文化、流通など多岐に渡ることから、授業の中で、重要な点を学生自身がまとめることができるように授業を進めるということに重点を置いた。</p> <p>②学生の受講動機は、「資格取得に必要である」53%、「単位数を確保する」47%、「関心のある内容である」40%と、なっており資格試験に向けての取り組みは重要であると思われる。</p> <p>③理解度の確認ならびに資格試験問題に触れてもらうため、1つの章の講義が終わる際に、その範囲の資格試験過去問を解いてもらい、学生の学習意識を高めるようにした。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された				
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>◎成績評価 最終的な成績の平均値は77点であり、再試対象者は6名であった。90%以上が標準レベルに達し、そのうち理想的レベルに達したもの(80点以上)は33名であった。</p> <p>◎授業アンケート結果 学習達成度の自己評価の「知識を確認、修正したり、新たに得ることができた」の項目では、平均値が3.9であり、おおむね達成されたと考えられる。学習量の評価において、「30分以上の復習」を行ったと答えた学生は33名/67名であった。知識の定着や理解度の確認のためには重要であり、3年次で受験する資格試験合格にもつながってくるため、家庭での学習ができるような取り組みを検討したい。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>① CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は「専門基礎分野」に配置されている科目である。「食」に関する歴史、文化、食品産業の仕組み、食に関する法律、食糧事情まで幅広い教養を身に付けられる科目であり、学生も一定の成績を取っている。また、受講動機で最も多かった「資格取得のため」の観点からみても、資格取得のためには最も基礎的かつ必要な知識であることから、内容的にも妥当であったと考える。</p> <p>② DPからみた内容的妥当性 成績評価から90%以上が標準レベルに達しており、基礎的な教養が身にについていると判断されるため、内容的にも妥当であったと考える</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価において、「自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均が3.4と最も低かった。「食」をテーマとしたグループワークなどを取り入れるなど、検討したい。到達度自己評価において、「コミュニケーションや表現力を高めることができた」の平均点が3.3と低いことから、グループワークの授業などで補っていきたいと考えている。</p> <p>学生からのコメントとして、「パワーポイントが見づらい」との指摘があったため、記載内容を絞ってわかりやすいものに改善したい。</p>
--	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>「専門基礎分野」に位置付けされている科目であるが、「食」に関する幅広い知識の修得については概ね達成できた。しかしながら、知識定着のための復習は受講者の半数以上で行っていなかった点は改善したいと考えている。今年度は配布物に授業のポイントを記録させ、それをレポートとして授業終了後に提出させていたが、復習を促すためのものに変更するなど、来年度に向けて検討する。また、資格取得のために必要な授業であったため、学生に発言させる機会が少なかった点に関しても検討していきたい。</p>
------------------------------	---

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	尾上 均

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
人体の構造と機能基礎実習	1	前期	選択	いいえ	80

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	○	×	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目は一年前期の選択科目であり、内容は、担当教員である尾上および岡部の専門である生化学および生理学の初学者向けの実習と実験である。今回の受講動機をみると「必須科目である」と答えたものが98.7%と飛び抜けて多く、次いで「資格取得に必要である」が5.3%であった。逆に、「関心のある内容である」を受講動機とする学生は、0%といなかった。岡部は、同時期(一年前期)に、解剖生理学の講義(座学)を行っているが、「関心のある内容である」を受講動機とする学生は、2.7%と低い。尾上の生化学 I および II の講義は、一年後期以降からまだ始まっていないが、同時期(一年前期)に、関連科目である生活の中の化学の講義(座学)を行っている。生活の中の化学は選択科目であるせいか、「関心のある内容である」を受講動機とする学生が、なぜか19.4%と、比較的高かった。生活の中の化学に関心を示した学生が、ひとりも本実習に関心のある科目として受講していないことは、やや不可解な印象を与える。生理学、生化学の基礎的知識が、管理栄養士の実践の場でも重要であり、意欲的に学習に取り組むことを本実習を通して啓蒙することは重要であり、今後工夫していきたい。</p> <p>②生理学、生化学などの基礎科目は、栄養学科学生の苦手とする科目であるが、座学と並行して学んだ内容をただ単に丸暗記するのではなく、関連する実習を通してからだのしくみを理解し、将来の管理栄養士としての実践活動に役立てることを念頭において本科目を構築している。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された		やや達成された		やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単に示して下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の平均点は75点で、受講者80名中79名が合格した。80点以上のものが27名、70点～79点が44名で、60点～69点が8名であった。</p> <p>学生の授業評価アンケートにて、「到達度自己評価」では、(7)の「自分が学ぼうとしている専門分野で必要となる技術を身につけることができた」が3.8点で、それ以外の項目はすべて4点以上であった。全項目の平均が4.14点以上であるので、概ね教育目標を達成できていると考えることもできる。</p> <p>成績評価は、レポートおよび実習への取り組み(「その他」の項)で行ったが、レポートの点数がほとんどの学生で比較的低かった。これは、実験で観察された事実やデータの客観的、論理的解釈や考察が不十分であることがほとんどの原因であった。また、「学習量の評価」で、28名の学生しか30分以上の予習および復習を複数回実施していない。座学と異なり、より実践的な状況に近い本科目の様な実習に対する意欲・関心の啓発の達成度は、やや不十分であると考えている。</p>					

5. DP, CP, カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP, CP, カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①本科目の位置づけは、専門基礎分野の選択科目であり、管理栄養士国家試験受験資格取得必須である。平均点や合格率だけをみると、内容的には妥当と考えられるが、実際に学生が意欲を持って取り組み、考える力をつけたか、という点(数字には表れにくい)においては、改善を目指していきたい。</p> <p>②DPでの位置づけは、知識理解、および意欲関心および技能表現を問う科目である。授業内容は、知識理解と技能表現を促すためのものとして、おおむね妥当な内容であったと考える。しかし、実際に十分な知識理解、技能表現を達成するためには学生一人一人が意欲的に取り組むことが大前提であり、この点、ほとんどの学生がまじめに取り組んではいたが、意欲において、今一歩不足していたように見受けられた。その結果、教育目標の達成度は、いずれも「やや達成された」と判断した。</p>
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>「授業の質評価」においては、全項目の平均は、3.4点であった。項目(3)「説明は理解しやすいものであった」が、3.1点で最も低かった。解剖生理、生化学などの基礎科目は、栄養学科学学生の苦手とする科目であるので、より一層わかりやすい説明を心掛けていきたい。</p>
--	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示ください。</p>	<p>専門教育科目・専門分野にあたる本科目の位置づけから、基礎的知識を生きた知識として実践現場に活かせるように、できるだけ座学の内容および身の回りの事例に関連付けながら実習を進めていく必要がある。</p>
------------------------------	--

リフレクションカード 2018年度前期

学科	栄養学科
氏名	山田 志麻

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎調理学実習	1	前期	必修	はい	81

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	○	○

3. 授業準備について

<p>授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、自由記述の意見など</p>	<p>①シラバスや実際の実習内容について予定を説明し、各週で誰が何を担当するかなど、役割分担を事前に決定し、個々人で献立の責任を持たせるようにした。</p> <p>②すべての実習のメニューのデモンストレーションを行い、どのような料理をどのように作成し、盛り付けるかまでをわかりやすく説明した。</p> <p>③実習の前週に次回の献立内容とポイントを記入するレポートを配布し予習してくるよう促した。</p> <p>④実習時間が短く、数種類の料理を作成するのは大変であるが、なぜそうするか、その理由をいつも説明し、根拠に基づき調理ができるように促した。</p> <p>⑤楽しく、おいしくをモットーに実習を行った。</p>
---	--

4. 学生の目標達成状況について

<p>(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。</p>	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された			やや達成された	やや達成された
<p>(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。</p> <p>* 根拠として、成績(トータル成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など</p>	<p>成績の評価点は84.9±4.4点、無資格2名であった。80点以上が88.5%であり、79点以下が11.5%とまずまずのレベルであった。</p> <p>到達度自己評価の平均値と中央値は(1)目標の達成:4.3、4.0、(2)知識の確認修正:4.4、5.0、(3)事象を理解する考え:3.8、4.0、(4)課題を検討する力:4.1、4.0、(5)的確な判断:4.3、4.5、(6)学習意欲:4.4、5.0、(7)必要とする技術の習得:4.4、5.0であった。この結果より、学習意欲の向上や知識の習得、的確な判断、技術などが習得できたと考えられる。</p> <p>授業の質の評価では(1)課題の評価が明確は平均点4.3、中央値4.0、(2)学習範囲の明確さは平均点4.3、中央値4.0、(3)説明の理解しやすさは平均点4.3、中央値4.0であり、総合的に理解しやすかったと考えられる。</p> <p>学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、学習量の評価の(1)より予習を全く行っていないものが8名であることが分かった。実習をスムーズに効率よく行うには全体の予習が必須であり、実習前課題として作業工程表の作成を義務付けているが、予習を行ってこない学生の班は、実習の効率や流れに支障をきたしていると推察される。予習を怠っている少数派の学生の対応が今後の課題である。</p>					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

<p>DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など</p>	<p>①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 「専門基礎科目」の「専門基礎分野」である本科目は、下学年にとって基本的専門分野として重要であり、必修である。授業評価の結果より、目標の達成や技術の習得などが行われているため、学生自身の達成感が見込められる。上学年への専門知識の習得に向け、専門の基礎固めとして、内容的には妥当であると考え。</p> <p>②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 学生の自己評価から専門的知識や技術の習得は比較的、達成度が高いが、自己啓発や研鑽しようとする態度は受け身であると思われた。</p> <p>③まとめ 以上から、内容的妥当性には問題はないと思われる。</p>
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

<p>授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお示しください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。</p> <p>&lt;授業評価の指標&gt; 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など</p>	<p>授業の質評価の(4)「授業中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」では平均点3.9、中央値4.0であった。基礎調理の習得であるため、いろいろな調理を行うことで技術や知識が身についていくが、実習内容に余裕があれば、「自分の意見をまとめる」、「話し合う」などの時間を取り、発表させるなどの参加型授業も組み込んでいきたい。2年前期の応用調理学実習では参加型実習を組み込んでいる。</p>
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

<p>達成状況の総括的評価と課題をお示しください。</p>	<p>71名中8名の学生が予習を行わずに調理実習に臨んでいることは、学習効率が非常に悪いと考えられる。この一部の学生の受け身的な態度を改善するよう対策が必要であると痛感した。対策として、実習前に各自が予習として、作業工程表を作成し、その工程表をもとに調理実習を行っている。1年生の基礎調理であるため、混乱は免れないが、少しずつでも各自ができるようになるように実習を積み重ねていく。また、調理技術をさらに身につけるため、自宅で調理を行うなど、自発的行動を促すよう取り組む。これと同時に、栄養価計算の知識、技術の習得も必要となるため、提出されたレポート課題の評価より、理解が不十分な学生に対しては個人指導を行うようにしている。</p> <p>本科目は「専門基礎科目」、「専門基礎分野」に位置づけるため、基礎的知識の形成については概ね達成できている。しかし、「実習中に自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が設けられていた」の評価がやや低かったため、実習前に「話し合う」などの時間を取り、グループ内で打ち合わせなどを活発に行えるよう組み込んでいきたい。</p>
-------------------------------	--